○愛媛縣　十五年六月廿六日伺。仝年七月十二日付

刑法第百五十條ノ看守又ハ護送者トアルハ則チ看守押丁及ヒ巡査ヲシテ看守又ハ護送セシムル際其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時ハ本條ニ依リ處分スルハ無論ナリト雖モ爰ニ郡長及ヒ戸長ニ於テ司法警察官ノ資格ヲ以テ現行犯等ノ被告人ヲ取扱中留置場ノ設ケ無之ニ付其役所ノ小使又ハ臨時日給雇ヲシテ看守又ハ繩取ニ充ル節其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時ハ該條ヲ適用シ起訴ノ手續ヲ爲スヘキヤ

指令伺ノ趣郡役所又ハ戸長役場ノ小使若クハ臨時雇ト雖モ全ク懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル者ハ刑法第百五十條ヲ適用スル儀ト心得ヘシ

但シ平時看守ノ護送職ニ在サル者ハ懈怠トナル場合ハ多カラサル可シ

○滋賀縣 十五年一月十六日伺。同年二月十日付

刑法第百五十一條第二項ニ若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ加フトアリ然レハ囚徒ヲ藏匿若クハ隱避セシムル時重罪ノ刑ニ處セラレタルコトハ知ラスト雖モ既ニ逃走ノ囚徒タルコトヲ知ル以上ハ本項ニ依リ論スヘキヤ

指令重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ナルヲ知ラサルモノハ第百五十一條一項ニ依リ處分ス

○弘前始審廳伺事（十五年七月十八日請訓 同年八月十六日內訓）

刑法第百五十一條ノ犯罪人トハ犯罪官ニ發覺シ官其人ヲ知リタル後ヲ云フ義ニ候哉

內訓未タ官ニ發覺セサル者モ本條ニ包含スル者トス

第百五十一條 犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラレタル者ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

○新潟裁判新發田支廳擬事（十四年九月七日請訓 十五年五月五日內訓）

第二十一條刑法第百五十二條ニ他人ノ罪ヲ免カレシムル爲メ罪證ヲ隱匿シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處セラル、ノ明文有之却テ第二百十八條ニ於テハ違警罪ヲ曲庇スル爲メ僞證ヲ爲シタル者ハ僅ニ違警罪ノ刑ヲ科セラル、明文有之若シ違警罪ヲ曲庇スル爲メ罪證ヲ隱蔽シタル者ニ比スレハ僞證ノ罪輕キカ如ク相見ヘ候得共第百五十二條ハ他人ノ重罪輕罪ヲ免カレシムル爲メニシテ元ヨリ違警罪ハ含蓄セサル儀ト相心得可然哉若シ果シテ然ラハ違警罪ヲ免カレシムル爲メ証憑トナル可キモノヲ隱匿シタル場合ニ於テハ元ヨリ微罪ナルヲ以テ不問ニ付シ候儀ト相心得可然哉

內訓第廿一條違警罪ヲ含蓄ス

（理由）刑法第二百十八條違警罪ヲ曲庇スル爲メ僞証ヲ爲シタル者ハ違警罪ノ刑ニ處スルニ過キス然ラハ則チ他人ノ違警罪ヲ免カレシメンコトヲ圖リ其罪証ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽シタル者ハ亦違警罪ノ刑ニ止メテ可ナリ然レモ第百五十二條他人ノ罪ヲ免カレシメンカ爲メ云々トアリテ重罪輕罪ニ

第百五十二條 他人ノ罪ヲ免カレシメンコトヲ圖リ其罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

限ルノ明文ナシ依テ該條ハ違警罪ヲ包含スル者トス

○弘前始審廳撿事（十五年七月十八日請訓 同年八月十六日内訓）

刑法第百五十二條ハ被告人ノ官ニ發覺ノ前後ニ關ハラサル儀ニ候哉

内訓請訓之通

第百五十三條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第四節 附加刑ノ執行ヲ遁ルヽ罪

第百五十四條 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行ヒタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○岡山輕罪廳擬事（十五年三月七日請訓 仝年四月十一日內訓內務省合議）

第一條監視ニ科セラレタル者主刑滿限ノ後赴クヘキ所ナキヲ以テ監獄則第三十條ニ依リ獄中ノ別房ニ在ラシメタル者ニシテ倘シ逃走シタル時ハ本來監視ノ規則ヲ遵守セシメタル者ニ無之ヲ以テ刑法第百五十五條ニモ照擬シ難キニ似タリ右ハ獄則ノ懲罰例中懲役人ニ準擬シ獄司限處分スルニ止マルモノ歟

內訓處罰スヘキ者ニアラス

右ハ內務省主管ニ係ル件ニ付左ニ照會 十五年三月廿七日

監獄則第三十條ニ依リ入監中ノ者若シ逃走シタル時ハ如何御處分可有之御見込ニ候哉伺出ノ向有之ニ付至急御回答相成度此段及御照會候也

內務省ヨリ回答 十五年三月三十一日

監獄則第三十條ニ依リ入監中ノ者若シ逃走シタル時ノ處分方御照會ノ趣了承右ハ別紙謄本ノ通指令相成候此段及御回答候也

別紙山梨縣伺ヘ指令 十五年三月十八日

懲治者處罰方ハ伺ノ通別房留置者ハ處罰ノ限ニアラス但懲治者ト雖モ逃走歸宅ノ後再ヒ入場セシメサル者ハ處罰スルニ及ハス

第百五十五條 監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

且二者ノ逃走ハ警察官ニ通知シテ捕獲スル議ハ不相成尤懲治者逃走セシトキハ其旨請願人ニ通知スヘシ

○盛岡始審廳 十五年五月廿六日請訓。仝年六月二日內訓

假出獄ヲ許サレタルモノ特別監視規則ニ違背シタル者アルトキハ刑法第百五十五條附加刑ノ執行ヲ遁ルヽ者ト同樣處分シ可然哉

內訓其見解ノ通

（理由）刑法第百五十五條ニ依テ處斷スルヿヲ得サルカ如シト雖モ退ヒテ實際ヲ顧ミレハ假出獄中ノ監視ト雖モ猶附加刑ノ性質ヲ免レサルノミナラス其取扱上ニ於テモ亦通常ノ監視ト異ナル所ナシ殊ニ假出獄中特別監視規則ニ違背スル者處分方ノ儀ハ刑法附則中別段明文モ無之候ニ付假令此規則ニ違背スル者アルモ奈何トモスル能ハサルノ不都合アルヲ以テ此ノ如キ者ハ刑法第百五十五條ニヨリ處斷スルモノトシ先例御取消可然考量ス

○前橋輕罪廳檢事 十五年六月八日請訓。同月十五日內訓

刑期滿限ノ後監視ニ付スヘキモノ無籍ナルヲ以テ素ヨリ住居ナク且引取人モ無之ニヨリ明治十四年第六十七號布告刑法附則第

三十二條ニヨリ監視ノ期限間監獄中ノ別房ニ留置セル者逃走セリ右等ノ如キハ本刑滿限後單ニ監視限內監獄中ニ留置スル者ナルヲ以テ刑法第百五十五條ノ監視規則ニ違背セルモノトシ處分スルヲ勿論ト心得可然哉或ハ就縛ノ上元ノ別房ニ留置スルニ止リ別ニ逃走ノ罪ナ不問者ト心得可然哉

內訓前段見解ノ通

○大坂府 十五年六月廿一日請訓。仝年仝月三十日內訓

監視者其規則ニ背キ若シ其犯罪現行犯ニアラサルトキト雖モ（假令ハ旅舍換ニ於テ當日酒宴遊興ノ席ニ會シタルヲ知ルノ類ヲ云フ）其身警察官ノ監視ニ係レハ現行犯處分ノ例ニ依リ警察官ニ於テ令狀ヲ發スルヿヲ得ルヤ將タ一般非現行犯罪ト同樣相心得可然哉

內訓請訓ノ趣後段見解ノ通

○岡山縣 十五年 月 日伺。仝年十二月六日付

第一條刑法第五十五條ノ特別監視ハ其性質本刑ヲ寬恕シタルモノニシテ附加ノ刑ニ非サレハ右監視中其條目ニ違背スル者アルモ刑法第百五十五條ニ依リ處分ス可カラサルハ勿論ニ候哉果シテ然ラハ若シ其條目ニ背ク者アルトキハ他ニ罰法ナキ（監獄則第四編第三

章ニ依リ處分スルハ不妥ヲ覺フ）ニヨリ單ニ行政ノ處分ヲ以テ出獄ヲ停ムルニ過キサルヤ

指令第一條刑法第百五十九條ニ據リ處分スヘシ

○内務省　十五年十月十四日照會。仝月廿三日回答

監視規則ノ儀　付別紙ノ通山梨縣ヨリ申出候依テ按スルニ監視ニ付スヘキ犯人ノ到着セサル何等ノ事故アルヤ未タ判明ナラサル儀ニモ候條左ノ通指令可然哉

書面伺ノ趣故ナクシテ到着セサル者ハ監視規則ヲ違犯セシモノト心得ヘシ

別紙

本縣甲斐國北巨摩郡管原村第百五十九番地平民

原　常吉

右ノ者本年二月三日横濱輕罪裁判廳ニ於テ竊盜ノ科ニヨリ重禁錮三ケ月監視六ケ月ニ處セラレ本年五月四日主刑滿期ニテ監視執行ノ爲メ横濱戸部町警察署ヨリ本縣韮崎警察署ヘ刑法附則第三條ニ記載シタル書類ノ遞送相成リ犯人ノ來署ヲ待ツニ旅行定限日數ノ經過スルモ來着ナキヲ以テ戸部町警察署其他ヘ照會ヲ

ナスモ犯人所在不相分今日迄既ニ四十余日ヲ經過スルモ未タ來署セス此儘打捨置候テハ監視期限モ經過スルニ至ルヘク然レモ旅券中ニ通行スヘキ道路ヲ指示シ無之ニ付捜査スヘキ道無之且監視規則ニ違犯セシ者トモ見認メ難ク右等ハ如何相心得可然哉

同答山梨縣伺監視規則ノ儀ニ付御指令案相添ヘ御照會ノ趣致承知候右ハ御立案通ニテ異存無之候條此段及御回答候也

○靜岡縣　十五年十月十二日伺。仝年十一月一日付

第一條特別監視ニ付セラレタル者逃走シタル時ハ主刑滿限ニ至ラサル者ナルヲ以テ無論已決ノ囚徒ト認メ刑法第百四十二條ニ據リ其罪ヲ治メル儀ト相心得可然哉

第二條果シテ前條ノ見解ノ如クスル時ハ特別監視ニ付セラレ逃走ヲナシタル罪ヲ治スルノ道アリト雖モ其逃走スルニ非スシテ刑法附則第四十四條ノ各項ニ觸ル、所爲アル時ハ如何處分シ可然哉

指令兩條トモ刑法第百五十五條ヲ以テ論スヘキモノトス同法第百四十二條ハ囚禁セラレタル囚徒ノ逃走シタル者ヲ罰スルノ法ト心得ヘシ

第百五十六條

前二條ノ罪ハ其刑期限内再ヒ犯シタルニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルヿヲ得ス

第五節　私ニ軍用ノ銃礮彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪

第百五十七條　官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ用ニ供スル銃礮彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ二日以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ

前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○滋賀縣　十五年三月十一日伺。同年五月十五日附

第一條明治五年第二十八號布告銃炮取締規則ニ違背ノ者其銃炮彈藥軍用ニ係ルモノナレハ刑法第百五十七條第百六十條ニヨリテ處分シ其銃炮彈藥獵用ニ係ルモノナレハ明治五年第二百八十二號及同七年第百三十二號布告ニヨリ處分スヘキモノニ候哉

第二條和銃玉目四匁八分以上ノ銃炮ハ目今陸海軍ノ用ニ供セサルモノナレトモ軍用ノ銃ナルヲ以テ該銃及ヒ其彈藥ノ免許ヲ得ス製造販賣又ハ所持スル者ハ刑法第百五十七條第百六十條ニヨリ處分スヘキヤ

第三條和銃玉目四匁以下ノ彈藥其他獵用ニ供スル霰彈等免許ヲ得スシテ製造取扱又ハ竊ニ所持スル者ハ五年第二百八十二號及ヒ七年第百三十二號布告ニヨリ處分スヘキ義ニ候哉

指令第一條刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ依リ其正條ナキ者ハ明治五年第二百八十二號同七年第百三十二號布告ニ依リ處斷ス可キモノトス

第二條伺ノ通

第三條第一條ノ指令ニ依テ了解ス可シ

右ニ付陸海軍省ヘ照會十五年三月三十一日

普通刑法第百五十七條中ニ陸海軍用ニ供スル銃礮云々ト有之候處右ハ和銃モ玉目ノ大小ニヨリ軍用ニ供スル者ト否トノ區別有之候哉又ハ和銃ハ總テ軍用ニ供スル者ニアラスト見做シ可然ヤ伺出ノ向有之候ニ付詳細御回答云々

陸軍省ヨリ答十五年四月八日

普通刑法第五十七條中陸海軍用ニ供スル銃炮云々件ニ付御照會之趣致承知候右當省ニ於テハ銃炮取締規則第五則ニ基キ和銃ト雖玉目ノ大小ニヨリ軍用ニ供スルモノト否ラサルトノ分界相立居候尤モ銃炮取締ノ儀ハ内務省ニ於テ管理候條尚同省ヘモ御照會相成可然云々

海軍省答十五年四月十五日

普通刑法第百五十七條軍用銃炮彈藥ノ儀ニ付御來問ノ趣承了右ハ其和洋ヲ問ハス又製造形質ノ如何　關セス軍用ニ供スルモノヲ指シタル儀ト被存候併シ其供用ト否トハ豫メ難相定何トナレハ和銃ノ如キハ今日之ヲ供用セサルモ一朝取テ軍用ニ充ツル者ナシトモ難申到底豫定相成カタキ儀ト被存云々

内務省答十五年五月八日

刑法第百五十七條中ニ陸海軍ノ用ニ供スル銃炮云々ノ義ニ付御照會ノ趣キ了承當省ニ於テモ確然區別スヘキ根據ハ無之候ヘ𪜈現行銃炮取締規則上ニテハ從來和銃ト雖モ玉目四匁以上ノモノハ都テ軍用銃ノ部類ト爲シ取扱居候云々

第百五十八條

前條ノ罪ヲ犯スト雖モ職工又ハ雇人ニシテ止タ正犯ノ使令ニ供シタル者ハ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

第百五十九條 前二條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○宇都宮輕罪廳檢事（十五年九月十八日請訓 仝月廿二日內訓電報）

刑法百六十條ニ無免許ニテ製造シタル物品ノミナルヤ亦ハ免許ノ有無ニハ拘カハラサルヤ

內訓本月十八日附刑法第百六十條ノ儀ニ付請訓ハ後段見込ノ通

第百六十條 第百五十七條ニ記載シタル物品ヲ私ニ所有シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十一條　第百五十七條ニ記載シタル物品ノ製造ニ供シタル器械ニシテ單ニ其用ニ供スヘキ者ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス

○名古屋始審廳判事（十五年十月　日質疑）
刑法第百六十二條ニ道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シタル云々トアリ若シ渡船ヲ切流シ往來ヲ妨害シタルモノハ如何
回答（仝年十一月二日回答）刑法第百六十二條ニ依ルノ限ニアラス

○弘前始審廳撿事（十五年七月十八日請訓）
第五條橋ノ欄干等ヲ毀棄スルモ往來ノ妨害ニ至ラサル者ハ第四百二十一條ニ依ルヘキ儀ニ候哉
内訓（仝年八月十六日内訓）第五條妨害ノ目的ヲ以テ毀棄ヲ爲シタル者ハ刑法第百六十二條ノ未遂犯ヲ以テ論ス可キ者トス
（理由）橋ノ欄干ヲ毀棄スル如キ未タ往來ヲ妨害スルニ至ラサル者ハ本伺ノ如ク人ノ器物ヲ毀棄スルヲ以テ論ス可シト謂フ說アリト雖モ抑モ本犯ノ所爲ハ橋ヲ毀棄スルニ在レハ未タ往來ヲ妨害スルニ至ラサルモ其所爲ヲ百六十二條ヨリ分離シテ器物ヲ毀棄シタルヲ以テ論セントスルハ謀殺ノ罪ヲ行ヒ止タ傷シテ死セサル者ハ鬪毆傷ヲ以テ論ス可シト謂フカ如シ論理ノ齟齬ト考量候ニ付本文ノ如シ

第六節　往來通信ヲ妨害スル罪

第百六十二條　道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百六十三條　僞計又ハ威力ヲ以テ郵使ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ亦前條ニ同シ

第百六十四條
電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス

第百六十五條
滊車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第百六十六條

船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐僞ノ標識ヲ點示シタル者ハ亦前條ニ同シ

第百六十七條

前數條ニ記載シタル罪其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職工自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

第百六十八條 第百六十二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第百六十九條 第百六十五條第百六十六條ノ罪ヲ犯シ因テ滊車ヲ顚覆シ又ハ船舶ヲ覆沒シタル時ハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタル時ハ死刑ニ處ス

第百七十條　此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○姫路始審廳判事　十四年十ﾞ月二日内訓　十五年一月十九日内訓

第百七十一條宅トハ人ノ住居シ又ハ住居スヘキ家屋ヲ云ヒ邸トハ家屋ノ外部ヲ圍繞スル牆塀内ノ地ヲ云フ歟而シテ建造物ノ外部ヲ圍繞スル牆塀内ノ地ニ入タル者モ亦建造物ニ入リタル者ト解釋スヘキヤ

内訓邸宅トハ人ノ住居シタル家屋及ヒ牆壁内ノ地ヲ云フ牆塀ヲ建造物トスルハ實際ノ模様ニ就テ判定セサルヘカラス

第七節　人ノ住所ヲ侵ス罪

第百七十一條　晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入リタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ

一　門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開

キテ入リタル時

二兇器其他犯罪ノ用ニ供スヘキ物品ヲ携帯シテ入リタル時

三暴行ヲ爲シテ入リタル時

四二人以上ニテ入リタル時

○姫路始審廳判事（十四年十二月四日請訓 十五年一月十九日內訓）

佛國訴訟法及ヒ備警兵考ヲ繙クニ凡十月一日ヨリ三月三十一日迄ハ午後第六時ヨリ午前第六時マテヲ夜ト稱シ四月一日ヨリ九月三十日迄ハ午後九時ヨリ午前第四時迄ヲ夜ト稱ストアレ圧山間ノ地ハ其位置方向ニ因リ差異ナキヲ得ス故ニ從來ノ貫慣及ヒ治罪法第二十四條ニヨリ暦ニ記載スル日出前日沒後ヲ以テ夜間トナシ而シテ山間ノ地ハ其實際ノ場合ニ從ヒ之ヲ斟酌スルヲ得ヘキヤ

內訓意見ノ通

第百七十二條 夜間戸ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入リタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ前條ニ記載シタル加重スヘキ所爲アル時ハ一等ヲ加フ

第百七十三條　故ナク皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入リタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

○弘前始審廳檢事（十五年七月十八日詰訓　同年八月十六日內訓）

刑法第百七十四條特別處分ノ封印トハ豫審判事ノ撿證處分ノ時施シタル者ノ類ニ候哉果シテ然ラハ特別ニアラサル官ノ紙封印ヲ破棄シ又ハ合鍵ヲ以テ錠ヲ開キタルモノハ無罪ナル儀ニ候哉

內訓特別トハ通常鎖鑰等ニ對シ云モノトス因テ官吏ノ封印ヲ爲スハ多ク特別ノモノナルヘシ伺面ハ如何ノ塲合ナルヤ明瞭セス更ニ伺出ヘシ

（理由）本條官ノ紙封印ヲ破棄シ又ハ合鍵ヲ以テ錠ヲ開タル者云々若シ此等ノ所爲ヲ爲ス者遞送者ニ係ル時ハ其罰則ニ依ラサルヲ得ス若シ又品ニヨリテハ官吏人民ヲ分タス官文書毀棄ヲ以テ論セサルヲ得ス或ハ止タ懲戒ニ止ムル者モ有ナルヘシ一概ニ論スヘカラサルヲ以テ本指令ノ通

第八節　官ノ封印ヲ破棄スル罪

第百七十四條　官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ看守者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ

第百七十五條 官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第百七十六條 看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪

第百七十七條

陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○水戸始審廳檢事 十五年三月廿二日伺。同月廿九日付

徴兵ヲ免カレン爲メ逃走シタル者ハ刑法第百七十八條ニ照シ處分シ可然ヤ

指令徴兵ヲ免カレン爲メ逃走シタル件伺之通

（理由）本條ニ詐僞ノ所爲ヲ以テ云々トアリ逃走ヲ以テ詐僞ノ所爲トスルハ字面上穩當ナラスト雖モ徴兵ヲ免カレン爲メ自已ノ蹤跡ヲ隱避シタル者ハ詐僞ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル者トセサルヲ得ス

○宇都宮輕罪廳檢事（十五年七月二日請訓）（同年十月廿八日内訓）

第一條刑法第百七十八條ニ陸海軍ノ徴兵ニ編入セラルヘキ者身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ストアリ然ルニ爰ニ本年徴兵適齡者アリ既ニ其身體檢査濟入營ノ期ニ際シ逃走セシ者或ハ其當年又ハ翌年徴兵適齡者逃走シテ檢査ノ時期マテ復歸セサル者アリ右等ハ身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シタル者ニモアラス又詐僞ノ所爲アリシモノニモアラス唯徴兵忌避ノ爲メ單ニ逃走シタル者ナリ故ニ本條ヲ

第百七十八條

陸海軍ノ徴兵ニ編入セラルヘキ者身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ニ囑託シ其氏名ヲ詐稱シ代テ徴募ニ應セシメタル者亦同シ其囑託ヲ受ケ

以テ罪スヘキモノニ非ス總則第二條ニヨリ無罪ノ者ト相心得可然哉又ハ唯單ニ逃走セシ者ト雖モ其逃走シタルハ免役ヲ圖リタル詐僞ノ手段ナリトシ本條ヲ以テ罰スヘキ義ト心得可然哉

内訓第一條徴兵檢査濟ノ者徴集ノ期ニ後レ十日ヲ過ル者ハ陸軍刑法第百七條ニヨリ處分ス徴兵ニ編入セラルヘキ者逃走シテ免役ヲ圖リタル者ハ普通刑法第百七十八條ニ依リ處分ス

第二條前條萬一後項見解ノ通リトスルモ其犯罪刑法實施以前ニアル者ハ舊律ニ明文ナキヲ以テ無論其罪ヲ問フヘキモノニ有之間敷ヤ

内訓第二條舊法ニ於テハ違令ニ問フヘキモノニ付新舊法ヲ比照シ輕キニ從テ處分ス

第三條萬一第一條后項見解ノ通逃走ヲ以テ詐僞ノ所爲トスレハ其逃走ノ所爲ハ繼續ナレハ本條其免役ヲ圖ルト云フハ繼續ニハアラサルヲ以テ繼續犯ト云フヘキモノニハ無之儀ト心得可然ヤ

内訓第三條即時犯ニシテ繼續犯ニ非ス但入營又ハ檢査ノ期ヲ以テ犯罪ノ日トス

テ徴募ニ應シタル者ハ第二百三十一條ノ例ニ照シテ處斷ス

第百七十九條

醫師化學家其他職業ニ因リ官署ノ解剖分拆又ハ監定ヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十條

裁判所ヨリ證人トシテ證據ヲ陳述スルヿヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ亦前條ニ同シ

第百八十一條　傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ當リ醫師其病患ヲ撿査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルコヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ背セサル時ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ一等ヲ減ス

第四章　信用ヲ害スル罪

第一節　貨幣ヲ偽造スル罪

第百八十二條　内國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

○滋賀縣　十五年一月十六日伺。仝年二月十日付

刑法第百八十二條貨幣變造トハ貨幣ノ價額量目ヲ增減シ眞物ヲ以テ僞物トナスコヲ云フガ如シ果シテ然ルヰハ例ヘハ一圓ノ文字ヲ十圓トナシ其價額ヲ增シ又ハ金銀貨ノ邊緣ヲ削リ取リテ其量目ヲ減シ又ハ銀貨ニ金ヲ鍍シ銅貨ニ銀ヲ鍍シ其價額ヲ增シテ行使スル類ハ皆變造ヲ以テ論シ可然哉

指令金貨ノ文字ヲ改メ仍ホ金貨トナシ銀貨ノ邊緣ヲ削リ取リ仍ホ銀貨ト爲スカ如キハ貨幣ノ變造トス銀貨ニ金ヲ鍍シ金貨ヲ造ルモノハ金貨僞造ヲ以テ論シ銅貨ニ銀ヲ鍍シ銀貨ヲ造ルモノハ銀貨僞造ヲ以テ論ス

(理由)凡ソ變造トハ原貨幣ノ形ヲ變シテ仍ホ其原貨幣ノ形ヲ存スル者ヲ云フ銀貨ニ金ヲ鍍シ金貨ヲ造ルカ如キハ則新ニ金貨ヲ僞造シタルモノニシテ金貨ヲ變造シタルモノニ非ス何トナレハ銀貨ニ金ヲ鍍シ金貨ヲ造ル者ハ銀貨ヲ用テ金貨ヲ僞造スルノ材料ニ供シタルモノニシテ他ノ物品ヲ用テ金貨ヲ僞造スルモノト毫モ異ナル所ナク其實新タニ一箇ノ金貨ヲ僞造シタル者ナレハ也

○米澤始審廳撿事　十五年三月三日伺。仝月九日付電報
商法上釣錢ニ用フル爲メ五錢手形ヲ出ス者アリ廣ク通用セサル
モ該家金滿家ナルヨリ人之ヲ信用シ一村外迄通用ス右ハ銀行條
例第八十八條ニ國法ニ從ヒ之ヲ罰ストアリ右ハ僞造貨幣條ニ從
フ歟將タ昨年第七十二号布告第四條ニヨルカ差懸ル件アリ電報
ニテ御指揮ヲ待ツ
指令本月三日付伺五錢ノ手形云々ノ儀ハ銀行條例第八十八條
ト昨年第七十二号布告第四條トニヨリ處分スヘシ
○長崎控訴廳判事（十五年四月十一日問合 同月廿五日回答電報）
新法頒布前貨幣ヲ僞造シ其行使ノミ頒布後ニ跨ル連續犯ハ無論
新法ニヨルモノト見込ムナレ𪜈或ハ新舊比照スヘキモノ乎ヲ聞
合ノ上返事ヲ乞フ
回答僞造貨幣ヲ行使スル者ノ義ニ付御問合ノ趣刑法百八十二
條ニ依テ處斷スヘキモノトス
（理由）刑法第百八十二條第一項ニ依レハ貨幣ヲ僞造シ而メ之
ヲ行使スルノ二事ヲ併セテ一罪トナスモノヽ如シ果シテ然
ラハ假令ヒ貨幣僞造ハ新法實施前ニアリ其行使ハ實施後ニ

係ルモ仍ホ頒布後ニ至テ該條ニ掲ケタル一罪ヲ犯シタルモ
ノト云ハサルヲ得ス
○新潟裁判所新發田支廳詰撿事（十四年九月七日請訓 十五年五月五日內訓）
第十九條刑法第百八十二條以下ニ掲クル貨幣變造ノ儀ハ例ヘハ
銅貨ニ銀粉ヲ塗貼裝飾シテ銀貨トナシ行使シタル者之ヲ銅貨變
造ヲ以テ論スヘキモノニ候哉又ハ銀貨變造ヲ以テ論スヘキヤ若
クハ銀貨僞造ヲ以テ論スヘキモノト相心得可然哉
內訓第十九條銀貨變造ヲ以テ論ス可シ

第百八十三條
內國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ有期徒刑ニ處ス
若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百八十四條
官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽造シテ行使シ若クハ變造シテ行使シタル者ハ內外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第百八十五條

內國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百八十六條

前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽造變造已ニ成テ未タ行使セサル者ハ各本刑ニ照シ一等ヲ減シ其未タ成ラサル者ハ二等ヲ減ス

若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ着手セサル者ハ各三等ヲ減ス

第百八十七條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工ハ前數條ニ記載シタル犯人ノ受クヘキ刑ニ照シテ各一等ヲ減ス

若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス

第百八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ偽造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

第百八十九條　偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シ

第百九十條　偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ取受シ之ヲ行使シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ照シ各二等ヲ減ス其未タ行使セサル者ハ各三等ヲ減ス

第百九十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○姫路始審廳判事（十四年十二月二日請訓 十五年一月十九日內訓）第百九十二條或論者アリ云ク本條第二項ノ犯人ハ監視ニ付スヘシ是前項ヲ受ケテ其文ヲ省略シタル者ナリト果シテ然ラハ本項モ亦他ノ文例（第百二十九條第四十一條 第二百二條第二百三條等）ニ從ヒ「若シ云々自首シタル時亦同シ」ト記スヘキナリ然ルニ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス」ト即チ本刑ヲ免スルノミヲ記シ而シテ付加刑ノコヲ云ハス且其犯人タル第一項ノ犯人ヨリ情狀稍輕キ者ナルヲ觀レハ無論付加刑ヲ科セサル者ト解釋シテ可ナルヤ

內訓意見ノ通

第百九十二條 貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入取受シタル者未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ行使セサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第百九十三條 貨幣ヲ取受スルノ後ニ於テ僞造又ハ變造ナルヿヲ知リ之ヲ行使シタル者ハ其價額二倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓以下ニ降スヿヲ得ス

第二節 官印ヲ僞造スル罪

第百九十四條 御璽國璽ヲ僞造シ又ハ其僞璽ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第百九十五條　各官署ノ印ヲ僞造シ又ハ其僞印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス

○滋賀縣　十五年一月十六日伺。十五年二月十日付
各官署ニ用ル各課各局ノ課印局印又ハ戸長役場印ヲ僞造シタル者ハ第百九十五條ニヨリ各官署印ヲ僞造シタル者ヲ以テ論シ可然ヤ
　指令各官署印ヲ僞造シタルモノトス
○新潟縣　十五年五月六日伺。四月二十日付
第百九十五條ニ各官署ノ印ヲ僞造シ又ハ其僞印ヲ使用シタルモノハ重懲役ニ處スト有之右官署印トハ單ニ官衙ノ印ノミニ限ラス判任官以上ノ官印ノ如キモ此中ニ包含スル義ニ候ヤ
　指令伺之通

第百九十六條　産物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ僞造シ又ハ其僞印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス
書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ僞造シ又ハ其僞印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百九十七條　御璽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ盜用シタル者ハ前數條ニ記載シタル僞造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ看守者自ラ犯シタル時ハ僞造ノ刑ニ同シ

第百九十八條　官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ僞造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百九十九條　已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

○太田治安廳判事補（十五年五月十八日請訓／同年六月五日內訓）

明治十四年第七十二号公布第六條ニ法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ストアルニ依リ煙草印紙再貼用スルモノ、如キハ煙草規則第三則第十條ニ明文アリト雖モ刑法第百九十八條ニヨラサルヲ得サルヘシ果シテ然ラハ刑法ニヨル時ハ第二百一條ニ照シ監視ノ付加刑アリ罰例ニ依ルトキハ六十圓以下ノ科料ニ過キスシテ刑法ニ從フ時ハ甚タ苛酷ヲ覺ユルト雖モ第七十二号公布第六條ノ明文アル限リハ假令何程ノ重刑ニ至ルモ刑法ニ從カハサルヲ得サル義ニ候ヤ

內訓煙草印紙ヲ再ヒ貼用シタルモノハ刑法第百九十九條ニヨリ處分スヘシ但罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ監視ニ付スルノ限リニアラス

○島根縣　十五年七月一日伺。同日付

證劵印稅帳簿檢査ノ節一旦用ヒタル印紙再用セシ者アル時ハ刑法第百九十九條ニ拘ハラス印稅帳簿檢査ノ節ニ限リ七年第百七十五号公達ニ依リ取扱ヘキヤ又印紙不足ヲ貼付シテ稅則ニ觸ル、者モ猶前項達ニ依リ處分スヘキヤ電報ニテ御指揮アレ

指令證劵印稅規則ノ件右ハ一旦用ヒタル者ヲ再用スル者ハ刑法ニヨリ不足ニ貼用スル者ハ伺之通

○新潟縣　十五年八月十九日請訓。同月三十一日內訓

刑法第百九十九條ノ刑ハ第二百一條此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニヨリ相當監視ニ付セラル、ハ勿論ナル處聞ク處ニ依レハ他ヘ御訓示ニ監視ハ体刑ニ附加スルニ止ルトアリシト果シテ然ラハ第百九十九條ノ刑ノ如キハ監視ヲ附加セラレサルモノト相心得可然哉

內訓見込ノ通

第二百條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三章　官ノ文書ヲ偽造スル罪

第二百二條

詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ無期徒刑ニ處ス其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ

○弘前始審廳檢事（十五年七月十八日請訓 同年八月十六日內訓）

刑法第二百二條第二百三條第二百四條等ノ偽造變造タルノ情ヲ知テ行使シ而シテ偽造變造者ノ共犯從犯ニアラサルモノハ何條ニ依ルヘキヤ

內訓 第二百二條ノ詔書ニ係レハ之ヲ行使シタル者ハ偽造ヲ以テ論シ以下各條ノ文書ニ係レハ行使シタルヲ以テ論ス可キモノトス

（理由）刑法第二百二條三條四條五條他人ノ偽造ニ係ルヲ知リ行使シタル者ノ件ニ付テハ刑法編纂ノ時ヨリ不備ト論スル者アリシ然ルニ止タ偽造シタルノミニテ之ヲ行使シタルハ（詔書ハ重シ未タ行使セサルモ偽造ノミヲ以テ罪ヲ得）未タ其害ヲ見ス畢竟官ノ文書以下ハ行使スルヲ專ラ責ム可キ者トス故ニ他人ノ偽造シタル情ヲ知テ行使シタル者ハ已レ自ラ偽造セスト雖モ偽造メ行使シタル者ヲ以テ處分セサルヲ得スト論シタル者アリト記憶セリ今之ヲ覆考スルニ法律ノ不備トシテ之ヲ不問ニ置クヨリ此論ニ從ヒ偽造メ行使シタル者ヲ以テ論スルヲ穩當ノ解釋ト考量セリ然レハ詔書偽造ニ行使ノ事ヲ掲スト雖モ偽造シタル時ハ未タ之ヲ行使セサルモ已ニ罪トナル法ナリ即チ行使スルモ猶此罰ヲ得ル罪ナルヲ以テ偽造ノ情ヲ知テ行使シタル者ハ己レ自ラ之ヲ偽造セサルモ偽造ヲ以テ論スルヲ當然ト考量候然ルニ此理論ニ於テモ完全無欠トハ確認シ難キヲ以テ御高裁ニ依リ如何樣トモ變更可仕先一應供電覽

〇濱松始審廳判事　十五年六月　日伺。仝月廿九日付

舊律詐僞官文書條ヲ新法第二百二條以下ニ對照スルニ舊律ニハ官ノ文書省臺司府藩縣ノ文書余ノ文書ト二項ニ分チ隨テ刑期ニ差等アリ新法ニハ第二百三條官ノ文書云々輕懲役ニ處ストノミアリ更ニ等差アルヲ見ス今爰ニ戶長役塲ノ簿書ヲ僞造又ハ增減變換シタルモノアランニ元來戶長タルヤ官吏ニ准スル者ナレハ其職務ニ關スル簿書類モ亦官ノ文書ニ准スヘキヲ以テ官私ノ區分ヲ論スル時ハ官ノ區分ナル可モノトハ存セラルレモ戶長役塲ノ簿書ヲ僞造又ハ增減變換シタルモノアレハ其簿書ノ樞要不樞要ヲ問ハス悉ク新法第二百三條ニ照シ處斷スル時ハ從來余ノ文書ヲ以テ論シ來リシト權衡大ニ異ナルニ付戶長役塲簿書中ニモ撿地帳或ハ割印番号帳ノ如キ樞要ノモノ又ハ同上ノ寫及ヒ扱書其餘貢租取立ニ便ナル爲メノ人名簿或ハ種々ノ雜書等ノ不樞要等ニ付區別有之儀ナルヤ譬ヘハ別紙ノ如キモノハ官ノ文書ニ增筆シタルモノヲ以テ處斷スヘキ限ニ非サルヤ然モ法律ノ改正ハ人知進明ノ度ニ從フモノニ付信用ヲ害スル罪ハ更ニ之ヲ重クシ戶長役塲費用ヲ以テ調製ニ係ル簿書類ナレハ之ヲ僞造又ハ增減變換シタルモノハ悉ク第二百三條ニ照シ輕懲役ニ處スルトノ立法ノ精神ニ可有之トハ存候得共餘リ權衡ノ異ナルモノニ付爲念相伺候也

別紙

甲某乙某ニ係リ地所ニ關スル民事詞訟中自己ノ申立ニ便益ヲ取ラントノ目的ヲ以テ戶長役塲ニ至リ何々何年撿地出畑高反別仕譯帳ト稱スル地券發行前ニ編纂シタル冊ヲ借覽ニ事寄セ窃ニ以畝歩名前等ヲ入筆シタル者但入筆シタル帳簿ハ撿地帳ニハアラス撿地帳ヲ寫取リ高反別ヲ一人每ニ持主ニ對シ仕譯ヲ以テ持主ノ變換ヲ詳カニシ又ハ貢租取立方ニ便ナル爲メ調製シタルモノナリ

指令伺ノ趣刑法第二百三條ニヨリ處分スヘキモノトス

(理由)伺書ノ別紙ニモ撿地帳ヲ寫取リ貢租取立方ニ便ナル爲メトアリ撿地帳ハ無論官文書ナルヘク之ヲ寫取リタルモノモ亦貢租取立等戶長ノ職務上要用タルハ辨ヲ待タサル者ナレハ樞要ノ簿書ト認メサルヲ得ス況ンヤ刑法二百三條ニ樞要不樞要ノ區別ヲ揭ケサルノミナラス本伺ノ帳簿ノ如キ

第二百三條　官ノ文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

ハ無論二百三條ヲ以テ論ス可キ者ト考量候

○弘前始審廳判事（十五年一月十九日請訓 仝年三月十日內訓）

民事裁判確定ノ後敗訴者ニ於テ其裁判ヲ執行セサル者アレハ公力ヲ用ヒテ之ヲ執行セシムルハ從前ノ慣例ナリシモ己ニ治罪法實施ノ今日ニ相成リテハ容易ニ公力ヲ用ヒテ人民ヲ勾束シ又ハ絕テ財物ヲ引渡サシムル等ノ命令ヲ爲スハ一般ノ法律ナキ上ハ不都合ト被存候就テハ右等ノ場合如何手續ヲナシ可然哉

內訓民事上確定裁判ノ執行ヲ拒ム者アルトキハ公力ヲ以テ之ヲ執行セシム可キハ從前ノ通ト相心得ヘシ但請訓中人民ヲ拘束シトアルハ明瞭ナラス事實ヲ悉シ更ニ請訓ニ及フヘシ

假令ハ爰ニ家屋地所或ハ其他ノ動產引渡ノ請求ヲナス者アリ裁判所ニ於テ之ヲ引渡スヘシト判決ヲ下スニ其引渡ヲナスヘキ義務者ニ於テ無謂之ヲ引渡サヽルニヨリ權利者ニ於テ其裁判執行ヲ要求シ裁判所ハ直ニ其執行スヘキ旨ヲ命スルモ尙義務者ニ於テ執行セサル時其動產不動產ヲ引渡サシムルノ手續如何

內訓本項ノ場合ニ於テモ仍ホ前項ノ通

又身代限リノ裁判ヲ爲シ其財產取調ニ際シ戶長又ハ原告者ニ立

合ヲ拒ミ或ハ身代限ノ揭示ヲ拒ミテ貼付セシメサル等ノ者アルトキ其本人ハ刑法第百三十九條以下ニ據リ相當處分ヲ爲スヘキモノト存候得共其財產取調及ヒ揭示方ハ如何ノ手續キヲナシテ然ルヘキヤ

內訓本項ノ場合ニ於テモ公力ヲ以テ其拒ム者ヲ制止シ財產取調ヲ爲サシメ又ハ揭示貼付ヲ爲サシムヘシ

又既ニ貼付セシメタル揭示ヲ本人自ラ剝取リ又ハ毀棄シタルトキハ刑法第四百二十九條十五項ニ依ル外他ニ正條無之樣存候得共右十五項ノ主義タルヤ人民ヨリ貼付報告シタル類ヲ云フモノニシテ官ヨリ公示シタル者ハ此內ニ含マサルヤ若シ含マサルモノトセハ是等ノ者ハ罰スヘキ正條無之者ニ候哉

內訓刑法第二百三條第二項ニ依テ處斷ス

○高崎治安廳判事補（十五年五月廿五日伺 仝年六月十七日付）

茲ニ一ノ詞訟アリ原告カ被告ニ對シ召換狀ヲ渡ス際該令狀ヲ拒絕シ且ツハ毀棄シ又ハ受領ナスモ其出庭ノ日ニ當リ故ナク出庭セス期限ヲ過キ出庭ヲ爲ス者アリ夫レ故ナク出庭云々ノ犯者ハ即明治十年第五号公布ニ依リ罰スヘキモノト雖モ獨リ令狀ヲ拒

絶毀棄ノ犯者ハ律令第二百八十八條ニ依リ處斷チナシタリ而ルニ今ヤ新法施行ニ方リ刑法中ニ官署ノ令狀ヲ拒絶毀棄ノ明文不相見モ毀棄者ノ如キハ第二百三條第二項ニ依リ判決スヘキ哉ニ被考候得共少シク苛酷ニ涉リ妥當ナラサルチ覺ユ然レモ單ニ官ノ文書トアレハ令狀チモ其一部ニ非スヤ抑第二條ノ法意ニ依據スレハ該犯者ハ罰スヘキモノニ非サルヿ照々トシテ明ケシ顯フニ唯法律ニ正條ナキ所以ニヨリ治罰セサレハ目下裁判上ニ許多ノ不都合チ釀生セリ如斯犯者ハ如何舉措可然哉

指令伺之趣喚出狀ヲ拒絶若クハ之ヲ毀棄スル者ハ處罰スルノ限ニアラス若シ喚出ノ時日ニ出庭セサル者ハ明治十年第五号布告ニヨリ處罰スル儀ト心得ヘシ但伺書ニ（原告カ被告ニ對シ召喚狀チ渡ス際）トアレモ昨年當省丁第廿六号達使丁規則相定候上ハ原告ヨリ被告ニ對シ直ニ呼出狀チ渡ス場合ハ無之因テ其使丁ノ手ニ在ル呼出狀チ毀棄シタル場合ハ更ニ伺出ヘシ

（理由）原告ヨリ召喚狀チ渡ス際被告ニ於テ之ヲ拒絶スルモ送達ノ功アル者ト看做サヽルヲ得ス故ニ出庭セサルトキハ明治十年第五号布告ニ依リ罰スヘキモノトス又之チ毀棄スル

モ己ニ受取リタル者トナスニ付官文書ヲ毀棄シタル者ト爲ス可ラス畢竟之ヲ拒絶シ若クハ毀棄スルモ喚出ノ日時ニ出庭スル時ハ實際不可ナカルヘシ若シ出庭セサル時ハ十年第五号布告ニ依リ處罰スルノミ

○水戸始審廳撿事　十五年九月一日伺。仝年仝月九日付電報

監視旅劵及ヒ票チ毀棄スルモノハ官文書毀棄チ以テ論スヘキヤ電報御指揮チ仰ク

指令本月一日付伺監視票及ヒ旅劵ノ儀ハ既ニ犯人下附シタル後之ヲ毀棄シタル時ハ官ノ文書チ毀棄シタル者チ以テ論スルノ限リニアラスト雖モ監視規則ニ違背シタル廉アレハ刑法第百五十五條以下ニ依リ處分ス

（理由）監視旅劵及ヒ監視票ノ如キハ元ト官署ニテ調製シタル後之ヲ毀棄シタル時ハ官ノ文書チ毀棄シタル者ヲ以テ論スヘキ者ニ非スト雖モ其毀棄ニ因リ遂ニ監視規則ニ違背スルニ至リタル時ハ刑法第百五十五條以下ニヨリ處分セサル可ラサル者トス

○新發田始審廳撿事（十五年九月十三日請訓 仝月廿九日內訓）

第一條現任戸長役ハ或ハ官吏タリ或ハ人民代理タルノ性格ヲ具有スルモノニテ從テ其發付スル所ノ文書モ亦タ自ラ官私ノ別アルモノヽ如ク然リ就テハ其文書ヲ偽造スル者ハ文書ノ性質ニ因テ區別シ假令ハ租税ヲ徵スル書面若クハ司法警察上ニ於テ發付スル書面等ニテ其事ノ國法ニ關スルモノハ官ノ文書ト做シ其他町村協議費ニ關スル書面等ノ如キハ私ノ文書ト見做シ刑法各條ニ疑斷シ可然哉將タ書面ノ性質如何ヲ問ハス苟モ役場名義ヲ以テ發付スル文書ハ概シテ之ヲ偽造スル者ハ刑法第二百三條ニ依リ處斷スヘキ儀ニ可有之候哉

内訓後段伺之通

○弘前始審廳撿事　十五年九月二日請訓。仝月三十日内訓

刑法第二百三條ニ有之官ノ文書トハ都テ官衙ヨリ發スル文書ノ樣ニ有之候ヘ共其旨意汎然ニシテ如此解釋候テハ際涯無之ニ付例ヘハ官衙ヨリ人民ニ對スル達命令書等ノ其未タ人民ノ手ニ達セサル以上ヲ云フ義ニシテ一度人民ノ手ニ達スル以下ハ都テ自家ノ私有タルハ勿論ナルヲ以テ官ノ文書ノ限ニ無之即陸軍省ヨリ後備豫備ノ兵卒ニ下付スル證書警察署ヨリ監視人ニ下與スル以下ハ私ノ文書タルハ勿論ナル乎若シ兵卒ノ犯罪ノ爲メ證書ヲ毀棄シ監視人ノ旅劵ヲ毀棄スルノ如キ事件アリトセンニハ單ニ其結果タル罪ノミヲ處分シ其目的ヲ達スル爲メニ毀棄スル罪ハ無之儀ト心得可然哉

内訓陸軍後備豫備證書及ヒ監視旅劵トモ己ニ下付シタル後之ヲ毀棄シタル時ハ官ノ文書ヲ毀棄スルヲ以テ論セサル者トス然レトモ毀棄ニ因リ召集ノ期ニ後レ及ヒ監視規則ニ違背スル等ノ廉アル時ハ法ニ照シ處分スヘキモノトス

(理由)監視旅劵ノ如キハ元ト官署ノ調製ニ係ルモ既ニ人民ノ手ニ下付シタル後之ヲ毀棄スル時ハ官文書ヲ毀棄スルヲ以テ論スヘキ者ニ非ス然レトモ毀棄ニヨリ監視規則ニ違背スル時ハ刑法第百五十五條以下ニヨリ處分ス而シテ陸軍省後備豫備ノ兵卒ニ下付スル證書ノ如キモ等シク官ノ調製ニ係リ已ニ下付シタル以上ハ猶ホ官文書毀棄ヲ以テ論セサル者トス然レトモ毀棄ニ因リ召集ノ期ニ後ルヽ等ノ事アル時ハ陸軍刑法第百七條ニ依リ論スヘキ者ト考量ス

○仙台輕罪廳撿事（十五年九月廿七日伺　仝年十月七日付電報）

警察署ヨリ他ヘ送リタル書狀ノ上袋ノミヲ破リ其書狀ヲ一覽シタル者ハ刑法第二百三條第二項ニ依ルヘキモノニアラス不問ニ置キ可然哉

指令本年九月二十七日附電報伺ノ趣右ハ刑法第二百三條第二項ニ依リ處斷スヘシ但酌量減輕スルコヲ得

○浦和輕罪廳撿事　十五年十一月十日質問。仝月廿日回答

茲ニ甲某アリ父ノ地劵ヲ盜ミ出シ乙某ニ之ヲ抵當トシ金數百圓ヲ借用センコヲ約シタルモ乙ハ戸長ノ公証ヲ望メリ因テ甲ハ父カ曾テ戸長ノ職ニアリテ元戸長役塲ノ癈印ヲ所有シタルヲ幸トシ擅ニ其父ノ氏名ヲ証書ニ記入シ倘ホ之ニ戸長ノ名義ヲ付シ押印ヲナシ其契印ハ即チ彼癈印ヲ採用シ遂ニ乙ヲ欺キ金圓ヲ借受ケタリ然レヒ甲ハ其期限ニ至リ丙者ニ托シテ之ヲ償還セシメタルニ豈測ランヤ丙者己レ擅ニ消費シ乙ニ返サス是ヲ以テ遂ニ乙ハ甲ニ對シ告訴ヲ爲シタリ（乙ハ丙カ私ニ費用シタルコハ知ラス）或論者ハ既ニ償還ヲ了リタル者ナレハ免訴ノ言渡ヲ爲ス可シト云ヘリ然レヒ小官ハ決シテ免訴ヲナスヘキモノニアラサルコヲ主張ス即チ甲ハ官文書僞造ノ犯者ニシテ丙ハ寄托物費用ノ罪アル者ト思料ス

回答御質問ノ趣甲ノ所爲ハ民事ノ詞訟ニ止リ丙ノ所爲ハ御見込ノ通

（理由）抑僞造文書ノ性質タル第一眞實ノ變換第二害ヲ加フルノ意思第三損害ノ發生スヘキ事柄タル三原素ヲ具備スヘキモノトス然ルニ今甲ノ所爲ヲ考フレハ第二ノ原素ヲ欠キタル者・如シ何トナレハ甲ノ証書ニ記載シタル父ノ氏名ハ現時戸長ニアラス且其印モ亦現時戸長役塲ノ印アラサルヲ以テ官ノ文書僞造トスヘカラサルノミナラス丙ニ托シ其義務ヲ償還セントセシ形跡判然タル以上ハ毫モ害ヲ加フルノ意思アルヲ見ス依テ甲ノ所爲ハ唯民事ノ詞訟ニ止リ丙ノ所爲ハ見込ノ通ニテ可然考量ス

○山形始審廳撿事　十五年十一月八日請訓。仝月廿一日內訓

始審又ハ治安裁判所ヨリ原被告ニ對シ呼出狀ヲ發シ出庭ヲ命シタルニ其出庭當日不參シ翌日ニ至リ其不參ノ責ヲ免カレンカ爲メ呼出狀ヲ增減シ假令ハ十一月七日トアルヲ八日ト變更シ出庭シテ其呼出狀ヲ以テ出庭當日ヲ詐誑スルモノ、如キハ刑法第二百三條ニ官ノ文書ヲ增減變換シテ行使シタル者トアルニ適スル

犯罪ト相心得可然哉

内訓請訓ノ趣刑法第二百三條ニ依リ罪ヲ問フノ限ニアラス但不參ノ罰ハ免カルヽヿヲ得ス

第二百四條 公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ無記名ノ公債證書ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

○大津始審廳檢事　十五年二月十五日伺。同月廿八日付

地所家屋等質入書入タル證書ヲ以テ借用金ヲ爲スニ當リ戸長役場ノ奥書証印ヲ僞造セル者アランニ（印章ヲ僞造セス有印ヲ用ユ）其法律適用ヲ論スルニ二說アリ其說ニ曰戸長ハ民選ニ出ルト雖モ命スルト否ラサルトハ官廳ニ在リ法ニ於テ警部在ラサル地ノ戸長ハ司法警察官トシ犯罪ヲ搜索ス官吏ニ非スシテ何ソヤ刑法第二百四條ニ從テ處斷スヘシ又曰縱令戸長ヲ以テ官吏トスルモ尋常民間ノ貸借ニ關スル證書ハ公債證書地券ノ類ト同シカラス刑法第二百十條ヲ適用スト二說何レカ是ナルヲ知ラス前說較々穩當ナルヤニ相考候ヘトモ何分ノ御明示ヲ乞フ

指令伺ノ趣戸長役場ノ奥書証印ヲ僞造シタル者ハ刑法第二百四條ニヨリ處斷スル儀ト心得ヘシ

（理由）刑法第二百四條ニ公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ僞造シ云々トアリ戸長ハ即チ官吏ニシテ其奥書證印シタル者ハ即チ官吏ノ公證シタル文書ナルニ因リ之ヲ僞造シタル者ハ同條ニ依リ處分スヘキ儀ト思考ス

○鹿兒島縣警部　十五年九月廿一日請訓。同月卅日内訓

第二百四條中ノ公證ニ右ノ列記ノ文書ヲ含メルカ
第一　不動産書入質證書等ニ戸長ノ爲シタル公證
第二　若シコレアル時ハ公證人ノ作リタル總テノ證書類
第三　區郡長戸長ノ爲シタル人民請願届書等ノ奥印
内訓見解之通

第二百五條
官吏其管掌ニ係ル文書ヲ僞造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ
其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百六條　官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

○宮崎始審廳檢事　十五年四月十三日伺。四月廿七日付

刑法第二百四條公債証書地券其他官吏ノ公書シタル文書ヲ偽造シ云々トアル右官吏ハ治罪法第六十條ニ左ニ記載シタル官吏ハ云々同條第四警部在ラサル地ノ戸長トアル法章アルヲ以テ刑法第二百四條ノ官吏モ同一ニシテ戸長其中ニアルハ論ヲ俟タサルヘシ依テ人民ニ於テ地券ヲ抵當ニ入レ金員貸借ノ契約証書ニ戸長カ奧書スル如キモ官吏ノ公證シタル文書ナルハ更ニ疑ヲ容レス果シテ然ラハ右奧書ヲ偽造セシハ刑法第二百四條ニ該ル所爲ナリト雖モ若シ其罪ヲ犯サンカ爲メ戸長役場ノ印ヲ偽造シ又ハ盜用シタルモノハ刑法第二百六條ニ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ストアルニ據リ直チニ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタルモノヲ以テ論スヘキモノト可心得ヤ

指令伺之通

第二百七條　此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四節　私印私書ヲ偽造スル罪

第二百八條　他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ノ印影ヲ盗用シタル者ハ一等ヲ減ス

〇米澤始審廳伺（十四年十二月廿二日伺 十五年二月十六日付）

刑法第二百八條他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタルモノハ云々ト有之候處右私印トハ實印ノミニ可有之哉又ハ實印外ノ者ト雖モ用ヰテ効力ヲ有スル印ハ總テ包含致シ居ル儀ニ可有之哉

指令權利義務ニ付キ効力ヲ有スル者ハ總テ伺之通

〇弘前始審廳伺（十五年七月十八日請訓 同年八月十六日內訓）

刑法第二百八條ノ使用トハ其偽印ヲ用立テタル者例ヘハ借金証書ヲ作リ之ニ偽印ヲ押捺シテ債主ニ渡シタルノ類ヲ云ヒ偽証書ヲ作リ偽印ヲ押捺スルモ未タ之ヲ用立テサルモノハ本條中ニ含蓄セサル義ニ候哉

盗用モ亦前條ノ趣意ト同シク盗ンテ捺シタルヲ前條ノ如ク用立テタルモノ始メテ此條ニ該リ机上ノ印影ヲ一時人ノ目ヲ偷ミ偽証書又ハ白紙ニ盗捺シタルノミノ類ハ無罪ナル儀ニ候哉

內訓請訓ノ通但他人ノ印ヲ盗取タル者ハ竊盗ヲ以テ論スル義トス

〇盛岡始審廳伺（十五年七月廿五日請訓 同年九月十四日內訓）

刑法第二百八條ニ他人ノ私印ヲ偽造シ云々ト有之右他人トハ同第三百七十七條ニ記載シアル一家親屬ヲ除キタル語ナルヤ刑法ヲ通覧スルニ他人トハ自己ニ對スルノ稱呼トモ相見ヘ候何レニ解釋シ可然哉

內訓親屬ヲモ包含ス

第二百九條　爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ證書若クハ金額ト交換スヘキ約定手形ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其手形證書ニ詐僞ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シ

○彦根輕罪廳撿事　十五年五月十七日伺。仝月三十日付

刑法第二百十條賣買貸借云々等ニ關スル證書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ云々其第二百十一條此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ云々トアリ右未遂已遂ノ區分ハ右證書ノ僞造ニ着手スルヨリ僞造ノナリタル迄ヲ犯罪ノ豫備トナシ不問ニ置キ其ナリタル證書ヲ以テ權理ヲ得ントナシタル者ヲ未遂犯罪トナシ其得タル者ヲ以テ初メテ既遂犯罪トナス乎將タ證書ヲ僞造ニ着手シタルヨリ僞造ノナル迄ヲ未遂犯罪トナシ其成リタル證書ヲ以テ權利ヲ得ントナシタル者ハ其目的ヲ達スルト否トヲ問ハス已遂犯罪トナス乎

指令已ニ行使シタル以上ハ權利ヲ得ルト否トヲ問ハス既遂犯ナリト雖ヒ一概ニ論シ難キ場合アリ實際ニ就テ伺出ヘシ

（理由）刑法第二百十條ハ證書ヲ僞造ニ又ハ增減變換シテ行使スルヲ以テ始メテ一罪ヲナス者ナルカ故ニ僞造又ハ增減變換既ニ成リ之ヲ行使セントシテ遂ケサル者ハ無論未遂犯罪トシ其未タ行使スル已前ニ係ルトキハ不問ニ措キ可然

○神奈川縣警部長　十五年七月一日質問。仝月六日回答

第二百十條　賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其餘ノ私書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十

諸營業者ニシテ其賣揚高ヲ僞リ屆書ヲ差出シタル者例ヘハ千圓ノ賣揚高ヲ六百圓ト詐リ殘リ四百圓ノ額ニ對スル稅金ヲ免カレ追テ發覺セシ者ハ其脫稅ノ分ヲ徵收スルハ勿論其所爲ハ刑法第二百十條第一項中義務ニ關スル証書ヲ僞造シタル者トシ處罰スル義歟又ハ他ニ罰スルノ項有之候ヤ

回答諸營業者ニシテ其賣揚高ヲ僞リ屆書ヲ差出シタル者處分方ノ儀ニ付御問合ノ趣致承知候右ハ刑法中處罰ノ正條無之ト相考候

○名古屋始審廳　十五年十月　日質疑。仝年十二月二日回答

刑法第二百十五條ニ公務ヲ免カルヘキ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ証書ヲ僞造シテ行使シタル者ハ云々トアリ若シ公務ヲ免カルヘキ爲メニ非ス假令ハ八氏相互ノ義務ヲ遁レンカ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病計書ヲ僞造シタル如キ事ニ害アル者ハ刑法第二百十條第二項ニ依リ處斷スヘキモノ乎

回答御見込之通

○松本始審廳伺事（十五年六月廿八日請訓 仝年七月廿六日內訓）

甲所有地ヲ質地トシテ乙ヘ（天保年度）相渡シ年期後年月ヲ經テ甲ハ右質地ニ對スル地所返リ約定書ヲ僞造シ之ヲ乙ヨリ受取リタルコニ詐僞シ乙ヘ係リ該質地受戻シ勸解出願及ヒタル處掛官ニ於テ之ヲ僞造ノ證書ト認メ該證ヲ甲ヨリ乙ヘ返付スヘキコヲ命シタリ然ルニ甲ハ之ヲ肯諾セサルカ故ニ掛官ハ該證書僞造ニ係ルヲ以テ破毀スル旨ヲ示シ甲ヨリ取揚ケ而メ勸解表中破毀シテ濟ロト朱書シ却テ乙ヘ下附シタリ（刑法第二百八十五條ノ所爲ハ無之）乙該證ヲ得テ以テ甲カ證書ヲ僞造シタル旨告訴セリ

前書ノ如ク勸解表ニハ破棄ストアリテ之ヲ現存シタルハ故意ヲ以テ甲ヨリ徵シ乙ヘ下渡シタルモノト思料スルニ付右ノ所爲ハ刑法第三百九十條ニ該ルヘキ者ナルカ

內訓別紙請訓ノ趣ハ當該官ニ於テ甲ノ所持スル證書ハ乙ニ交付スルヲ相當ト思料スルモ其甲カ承諾ヲ經ス之ヲ取上ケ乙ニ交付シタルハ至當ノ處分ニ非スト雖モ果シテ僞造ニ係ル證書ト信認シテ其處分ヲ爲シタル節ハ刑法ニ問フヘキモノニ非ラス此旨及內訓候也

○太田治安廳判事補（十五年十一月十四日請訓 仝月廿四日內訓）

玆ニ乙某ナル者甲某ヨリ金圓借用ノ際金借證ヘ丙丁某等ノ氏名

圓以下ノ罰金ヲ附加ス

ヲ私擅ニ請人等ニ記入有合印ヲ押捺シ差入レタル者アリ期限返濟不相成ニ付甲ヨリ請人丙丁某等ヘ及督促始テ丙丁ノ兩名ハ之ヲ知ラス僞書僞印ナル事ヲ覺知シ終ニ及告訴タルアリ之ヲ處斷スル刑法第二百十條ニ據ル可キハ勿論ノ處該證書ハ明治十四年中ニ差入レタル者ニテ則チ新法實施前ニ在レハ繼續犯ニ在ラサル者ニ在テハ新舊比照輕ニ據リ處斷爲スヘキハ刑法第三條ノ二項ニ明文アリト雖モ僞諸書ヲ以テ金圓借入レタル如キハ其金額返濟ノ義務ヲ果サヽル限リハ幾年ヲ經ルモ則チ所犯繼續ノ者ナレハ假令證書差入レタルハ新法實施前ニアルモ刑法第二百十條ニ據ル可キ者ト思考候得共聊疑義アリ

内訓請訓ノ趣ハ繼續犯ニ非ス新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス可シ

○太田治安廳判事補（十五年十二月十六日請訓 仝月廿八日内訓）

明治十五年十一月十四日付請訓第三号ヲ以テ新法實施前ニ僞造シタル證書明治十五年ニ至リ發覺シタル者ハ其所犯繼續ナル者ナレハ新舊法ヲ比照セス刑法第二百十條ニ依リ可然哉小官ヨリ仰内訓候處仝月廿四日六二三八号ヲ以テ請訓ノ趣ハ繼續犯ニ非ラス新舊法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷スヘシト内訓セラレタリ然レハ請訓ノ如キ所爲ハ假令僞造證書ノ義務ヲ果サストモ其證書ノ義務消不消ヲ問ハサル儀ト被相考候然ルニ當廳撿事代理吉川通ヨリ明治十五年八月二日付ヲ以テ證劵印税規則違犯ノ者公訴期滿免除ノ義ニ付テノ伺ニ對セル御指令ノ但書ニ據レハ證劵印税規則違犯者ハ印紙ヲ貼用セサル間期滿免除ヲ與ヘスト有之候ニ付該規則違犯者ハ正當ノ手續ヲ履マサル限リハ其所爲ノ繼續ナルニヨリ之ヲ責ル亦當時ニ止ラスシテ期滿免除ヲ得サル儀ト被相考候得共抑正當ノ手續ヲ履マサルニ根據シテ繼續ナル者ナレハ僞造証書ト雖モ其罪ヲ得ルモ亦其罪ヲ免カルヽモ歸スル所同一ナラサルヲ得ス證劵印税違犯者ハ規則ニ違犯スル者ニシテ刑法ニ所謂僞造證書ノ罪ト聊カ殊別アルニ似タリト雖モ一ハ規則ニ違犯セル迄ノ罪ニシテ正當ノ手續ヲ履マサル限リハ期滿免除ヲ得ルノ期ナク一ハ債主ノ之ヲ覺知セサルヲ僥倖トシテ三年ヲハ經過スル後期滿免除ヲ得證書ノ義務ヲ免カレサルニモセヨ刑法上ノ罰ヲ免カルヽニ至レハ聊カ權衡平ヲ失スルヲ覺ニ前後御指令ノ旨更ニ疑團ヲ生シ候

內訓請訓ノ趣ハ法律ニ於テ證書ヲ偽造シ行使シタル者ヲ罰スルハ其偽造ト行使ノ所為ヲ罰スル者ニシテ偽造シ行使シタル形蹟ノ存スル者ヲ罰スルニ非ス而シテ偽造シ行使スルノ所為ハ偽造シ行使スルヤ直ニ終了シ權利者カ其證書ヲ所持スルハ則チ偽造シ行使シタル所為ノ形蹟ノ存スル者タルニ止マルヲ以テ其罪ハ繼續犯ニ非サル儀ト心得ヘシ

○開拓使　十五年一月廿六日問合。同二月廿二日回答

私ノ文書ヲ偽造シ未タ行使セサルモノハ法律ニ正條ナキヲ以テ罰スル限ニ無之ヤ又ハ未遂犯罪ノ例ニヨルヤ

前段御見込ノ通但行使ニ着手シ遂ケサルモノハ第二百十一條ニヨリ處分ス

第二百十一條

此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百十二條
此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ僞造スル罪

第二百十三條
官ノ免狀又ハ鑑札ヲ僞造シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官印ヲ僞造シ又ハ盜用シタル時ハ僞造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第二百十四條

屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ加フ

第二百十五條

公務ヲ免カル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ僞造シテ行使シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲ニスルヲ分タス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

醫師囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ證書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フ

○新潟始審廳判事（十五年六月廿一日請訓 同月廿八日內訓電報）

公務ヲ免ルヘキ爲メ醫師ニ屬託シテ詐僞ノ證書ヲ作ラシメ行使シタル者ハ刑法第二百十五條ニヨリ自ラ僞造シタル者ト同シク處分スヘキ哉屬託者ヲ處スルノ明文ナキヲ以テ疑義アリ至急內訓ヲ乞フ

內訓公務ヲ免ルヘキ爲メ醫師ニ屬託シテ詐僞ノ證書ヲ作ラシメタル者處分方ノ件ハ見込ノ通刑法第二百十五條ニヨリテ處斷ス

○長野始審廳檢事　十五年十二月問合。同月十二日回答

第二條裁判所（民刑事勸解）ノ召喚ヲ受ケタル者疾病ト詐稱シ不參屆ヲ爲スニ際シ醫師ニ囑託シテ詐稱ノ診斷書ヲ造リ行使シタル者

右ハ公務ヲ免カルヽノ所爲トナシ不參者及ヒ醫師共刑法第二百十五條ヲ適用區處シ可然ヤ

回答貴解ノ通

第二百十六條 陸海軍ノ徴兵ヲ免カルヘキ爲メ疾病ノ証書ヲ僞造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ証書ヲ造リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百十七條　免狀鑑札及ヒ疾病ノ證書ヲ增減變換シテ行使シタル者亦偽造ノ刑ニ同シ

○警視総監　十五年八月廿五日伺。同年九月五日付

爰ニ死者アリ醫ノ診斷書ノ有ル在ラサレハ埋葬証ヲ受クルニ由ナキヲ以テ未タ診察セサル醫ニ病氣容体ヲ申聞ケ診斷書付與セン事ヲ乞フ醫之ヲ肯シ診察セス輙ク診斷書ヲ作爲シ之ヲ與フ家人此書ヲ携ヘテ區役所ニ屆ケ遂ニ埋葬証ヲ受ケ葬儀終ルノ後事發覺セリ於是右輙ク診斷書ヲ付與シタル醫師ハ偽証ノ罪アル者ノ如シト雖𪜈刑法ニ正條ナキヲ以テ不問ニ付スヘキ哉往々右様ノ所爲有之抱疑候也

指令伺ノ趣刑法上偽証ノ罪ト爲ラサルモノハ不問ニ措クヘシ

○山形始審廳判事　十五年七月六日請訓。同月廿六日内訓。

茲ニ甲某アリ乙某ヲ毆打シテ創傷セシメタルヨリ被害者乙ノ告訴ニ係リ審問中丙某アリ乙ヲ毆打創傷セシハ甲ニアラシテテ丙也ト首出セリ依テ之ヲ審糺スルニ甲ノ乙ヲ毆打シタル証憑ハ充分ニシテ丙也身ヲ犧牲（甲ヲ曲庇スルノ情狀旨端）トナシ甲ノ罪ヲ免レシメンコヲ謀リシ旨自白セリ此場合ニ於テ丙ノ罪ヲ刑法ニ照スニ更ニ其正條アルナシ丙ノ所爲タル罪ナシト爲サストモ雖

第六節　偽證ノ罪

第二百十八條　刑事ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽證ヲ爲シタル時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

一　重罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下

ヒ刑法ニ正條アラサル限リハ勿論同第二條ニ因リ其罪ヲ罰セサル者ト考量スルモ爲念仰内訓候也

内訓已レ人ヲ毆打スルニ非ス詐ナ毆打シタルト首出スル者處分ノ件請訓ノ趣右ハ証人トシテ陳述セシメタル者ニ非サレハ刑法ノ問フ所ニアラス

(理由)人ニ代テ刑ヲ受ケントスル者至親ノ者ヲ除ク外ハ皆狂愚ナリ若シ然ラサレハ金圓ヲ受ル等シク本犯ヲ曲庇スルニ當ルト雖モ己レカ身ヲ以テ至親ト狂愚者ハ曲庇ヲ以テ論スルニ忍ヒス然レハ貪慾ノ心ニ出タル者ノミヲ曲庇ヲ以テ論スヘキカ貪慾ノ所爲ヲ夫々箇別スルヿ懼クハ難カルヘシ故ニ己レ自ラ代テ刑ヲ受ケントスル者ハ刑法ノ曲庇ヲ以テ論セサル樣解釋スルヲ穩當ト考量ス

ノ罰金ヲ附加ス

二輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ違警罪ノ本條ニヨリテ處斷ス

第二百十九條　偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ偽證者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

○愛媛縣　十五年三月廿八日伺。同年四月十二日付
爰ニ偽証ノ爲メ被告人違警罪ノ刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽証ノ罪發覺シタル時ハ刑法第二百二十一條ニ依リ偽証者ヲ其刑ニ反坐ス若シ反坐ノ刑偽証ノ刑ヨリ輕キ時ハ刑法第二百二十條第三項ニ依テ輕罪ニ係ルヲ以テ起訴ノ手續ヲ爲スハ論ヲ俟スト雖モ其偽證ノ爲メ違警罪ニ處セラレタル科料金ノ如キハ還付セサルヲ得ス然ルニ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シテハ治罪法第四百三十九條第四百四十條ニ依リ再審ノ訴ヲ爲シ及ヒ同法第四百四十七條ニ依リ名譽ヲ復スルヲ得特リ違警罪ニ於テハ再審ノ訴ヲナスノ正條無之ノミナラス總テ上訴ヲ許サスト客年第四十四号ヲ以テ公布有之候ヘ共右ハ上訴マテモ無之前裁判言渡ハ無論其裁判所ニ於テ取消シ可然ヤ

指令前裁判言渡ハ取消スヿヲ得ス但偽證ノ爲メ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ偽證者ニ對シ要償ノ訴ヲナスヿヲ得

第二百二十條　被告人ヲ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

一　重罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二　輕罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ六月以上二年以

下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三達警罪ニ陷ラシムル爲メ僞證シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

四百九十三

第二百二十一條　僞證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ僞證ノ罪發覺シタル時ハ僞證者ヲ其刑ニ反座ス若シ反坐ノ刑前條ニ記載シタル僞證ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

其刑期限內ニ於テ僞證ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ反座ノ刑

期ヲ減スルヿヲ得但減シテ前條偽證ノ刑ヨリ降スヿヲ得ス

第二百二十二條 偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反坐ノ刑一等ヲ減ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス若シ被告人ヲ死ニ陷ル丶ノ目的ヲ以テ偽證ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反坐ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス

第二百二十三條
民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽證ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十四條
鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百二十五條 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ僞證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ亦僞證ノ例ニ同シ

第二百二十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

○宇和島輕罪廳撿事（十五年三月九日伺同月十八日付電報）農民無撿印ノ斗概ヲ用ヒ其作リタル米ヲ賣ル度量衡規則ノ商業ト云フカ急キ指揮ヲ乞フ

指令農夫無撿印ノ斗概ヲ用ヒ米ヲ賣リタル件度量衡規則ニ從ヒ處分スヘシ

（理由）農夫自已ノ作リタル米麥ヲ販賣スルハ商業トハ言ヒ難シト雖モ農夫ト雖モ米麥ヲ販賣スルトキハ規則ニ定メタル斗概ヲ用ヒサルヲ得ス

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

第二百二十七條 度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百二十八條 偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ減ス

〇新潟裁判所新發田支廳檢事（十四年九月七日請訓 十五年五月五日內訓）第二十二條刑法第二百二十八條ニ於テ僞造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者云々ト有之第二百二十九條ニ人情ヲ知テノ文字無之元來無意ノ犯罪ハ刑ヲ科スヘキ限ニ非サルハ總則第七十七條ニ明掲有之義ニ候得共故サラニ第二百二十八條ニ情ヲ知テノ文字有之ヲ見レハ第二百二十九條ノ所爲ノ如キハ假令情ヲ知ラスシテ僞造變造ノ度量衡ヲ所有シタルモノト雖モ之ヲ該條ニ依テ所斷スヘキ儀ト相心得可然哉

內訓伺ノ廿二條定規增減ノ情ヲ知ル者ニ限ル可シ

（理由）刑法第七十七條無意ノ罪ハ之ヲ論セス又罪ト爲ルヘキ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者不論罪トス然ラハ則チ第二百廿九條定規ヲ增減シタル度量衡ヲ所有スル者其情ヲ知ラサルニ於テハ固ヨリ其罪ヲ論スルヿヲ得ス假令前條（即チ第二百二十八條）ニ情ヲ知テ云々トアリ而シテ本條其明文ナキモ是故ヲ以テ總則ノ例規ヲ適用セサル者ト爲シ難シ

〇德島始審廳判事（十五年十一月日請訓 同月十一日內訓）刑法第二百廿九條ニ商賈農工定規ヲ增減シタル度量衡ヲ所有シタル者ハ云々トアリテ商農工三民ノ內如何ナル營業ノ者カ度量衡三器ノ內何ノ器ヲ所有シタルトキハト云フノ區別ヲ示サレサレハ其文字上ニ就テ論スル時ハ其營業ノ商タル農タル工タルヲ問ハス右三民ノ者ニ〆定規ヲ增減シタル度量衡三器中ノ其一器ヲ所有シタルトキハ其所爲タル一般ニ該條ヲ以テ罰スヘキ罪タルカ如シ然レトモ該條ニ特ニ商賈農工ノ三民ヲ揭ケ官吏學藝授業師等ヲ除カレタルニ據レハ該條ノ精神ハ商農工ノ三民ニシテ定規ヲ增減シタル度量衡ヲ所有スト雖モ其營業ニ關セサルモノ例ハ呉服商ニシテ其營業上斗量ヲ用ヒサル者カ定規ヲ增減シタル斗量ヲ所有シ田畑ニ穀物菜蔬ヲ培養スル而已ノ農民ニシテ其營業上尺度ヲ用ヒサル者カ定規ヲ增減シタル尺度ヲ所有スルカ如キ所爲ハ該條ヲ以テ罰スヘキ限リニアラサル歟ト考ヘラレ該條ノ見解ニ付疑義ヲ生候條仰御內訓候也但親カラ度量衡ヲ變造シタル者ニシテ度量衡規則ニ其罰則アルモノハ該規則ヲ適用スヘキモノニ付本文ノ限リニアラス

內訓刑法第二百二十九條疑義請訓ハ見込ノ通

第二百二十九條 商賈農工定規ヲ增減シタル度量衡ヲ所有シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第二百三十條 人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ其囑託シタル犯人ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

○滋賀縣　十五年一月十六日伺。仝年二月十日付
犯罪人被告事件吟味中屬籍身分氏名年齡職業等ヲ詐稱シタル者ハ其罪ヲ問ハサルカ又ハ第二百三十一條ニヨリ處分ス可ヤ如何
指令前段伺之通
後段伺ノ通（十五年十一月廿七日改正）
○石川縣　十五年三月十日伺。仝年四月十一日付
茲ニ違警罪ヲ犯スモノアリ巡査ニ於テ住所姓名ヲ尋問スルニ何所某ト明答スルヲ以テ放還シ置キ追テ呼出狀ヲ發スルモ名當リノ者無之然ルニ其後該被告人ヲ發見シ取調フルニ全ク先キニ住所姓名ヲ詐稱シタル旨申立右ノ如キハ刑法第二百三十一條ニヨリ處分スヘキ限リニ無之哉果シテ然ラハ詐稱ノ罪ハ刑法ニ明文ナキニ依リ不問ニ付シ可然哉
指令伺ノ趣刑法第二百三十一條ニヨリ罪ヲ問フヘキモノトス
（理由）刑法第二百三十一條ニ明文アリテ被告人ハ限外ナリトノ取除キナキ以上ハ無罪有罪ヲ問ハス詐稱ノ罪ヲ治メサルヲ得サルヘシ一說ニハ被告人ノ姓名ヲ詐稱スルハ辨護權中ノ者ニテ無罪ナルヘシト論スレヒ若シ被告人カ一ノ罪ヲ

第八節　身分ヲ詐稱スル罪

第二百三十一條　官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齡職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

犯シ所々徘徊中氏名ヲ詐テ客店ニ止宿スル時ハ東京府下ノ如キハ違警罪ハ免カレサルヘシ此被告人ノ心事モ其罪人タルヿヲ掩蔽セント欲スルニ外ナラス果シテ然ラハ査吏カ一ノ無頼者ヲ認メ之ヲ警察署ニ同行シテ姓名ヲ問フ迄ハ有罪者タルヤ否未タ知ラサルニ無頼者ハ會テ犯罪アルヲ思ヒ故ラニ氏名ヲ詐ハルハ此ノ如キ者ハ氏名ヲ詐稱シテ旅店ニ投スルモノト何ソ擇ハンヤ又華士族罪ヲ犯シ平民ノ氏名ヲ詐冒シ刑ヲ受ケ貴号ヲ褫ノ附加刑ヲ逃レ滿刑後元ノ華士族ニ復スルノ所爲アルモノヽ如キ又之ヲ不問ニ置キ難カルヘシ故ニ律意ハ被告人ト常人トノ別ナク總テ之ヲ罰スルノ精神ト論定セサルヲ得ス
○山田始審廳　十五年二月十三日質問。仝年四月廿二日回答
再犯加重等ノ處分ヲ恐レ犯數ヲ隱蔽センカ爲メ又ハ其他ノ原由ニヨリ名籍ヲ詐稱シ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ如キハ刑法第二百三十一條ニヨリ處分スヘキ限リニアラサル乎
回答刑法第百二條ニヨリ處分スヘキモノトス
○延岡治安廳判事補（十五年四月六日請訓仝年五月二日付）

爰ニ探偵掛又ハ巡査手先ヲ勤メ月俸若干ヲ賜ル者ト詐稱スル者アリ其所爲ヲ問ヘハ人ノ財産ヲ騙取スルニ非ラス又人ヲ逮捕スルニ非ス唯身官吏ノ部内ニアリト云フヲ目的トシテ之ヲ詐言セシノミ右ハ刑法第二百三十二條官職位階ヲ詐稱シ云々ノ明文ヲ適用シ可然ト被相考候ヘ共聊カ疑義ニ渉リ候間内訓ヲ乞フ云々

指令伺ノ趣引例ノ場合ノ如キハ事實ニヨリ一概ニ論シ難キ者ニ付其事實ヲ詳記シ更ニ伺出ヘシ

但探偵掛巡査手先ノ身分ヲモ詳記可致事

○浦和輕罪廳撿事（十五年四月廿七日問合 仝年五月二日回答）

茲ニ窃盜犯アリ當初被告事件ニ付審問ノ際鄕貫氏名ヲ詐稱シ其儘處刑セラル滿刑ニ際シ監視處分等ノコアルヲ以テ典獄吏ニ其本籍ヲ詳問スルモ尙ホ其實ヲ吐露セス勢不得止ニ至リ終ニ當初己レカ氏名等ヲ詐稱シタルコヲ自首スルカ如キハ滿刑ノ後更ニ鄕貫氏名ヲ詐稱シタモノトナシ刑法第三百三十一條ニヨリ罰スヘキヤ將タ刑法第百二條二罪倶發ノ例ニヨルヘキカ尤モ小官ニ於テハ無論二罪倶發條ニ依ルヘキモノト思定候得共傍論沸騰シテ一定セス爲念一應仰御敎示候也

回答本月廿七日附ヲ以テ窃盜犯ノ鄕貫氏名ヲ詐稱セシ者處分方御問合ノ趣承知仕候右ハ貴官御見込ノ通ニテ可然思考候

○松江輕罪廳撿事　十五年四月七日伺。仝年五月廿七日付

刑法第二百三十一條ニ官署ニ對シ云々トアルハ官署ノ命ニ依リ職務ヲ取扱フ官吏ニ對シ該條ノ所爲アルモノモ包括スルカ

指令伺之通

行政規則ヲ以テ各旅店ニ帳簿ヲ備置キ旅客ノ本貫住所身分姓名等ヲ記載セシメ期ヲ定メテ官署ヨリ之ヲ撿閲スルノ例アリ此帳簿ニ詐リテ記載セル者ハ刑法第二百三十一條ニ該ルヘキ罪トナスヘキ乎

指令刑法第二百三十一條ニ依リ罰スヘキノ限リニアラス

○山形始審廳撿事（十五年五月十七日請訓 仝年六月一日內訓）

第一條刑法第二百三十一條ノ律意ハ法衙ニ於テ被告人又ハ證人等訊問ノ際族籍身分氏名年齡職業ノ一部ヲ詐稱セシモ本條ノ問フ處ニ可有之哉

第二條官署ノ文義ニ對シ穩當ナラサルカ如シト雖モ素官署ハ無形物ニシテ官吏ヲ以テ成立モノナレハ官吏其公務ヲ帶衙門外ニ

派遣シ職務ヲ行フトキ其官吏ニ對シ族籍等ヲ詐稱スル等ノ如キモ刑法第二百三十一條ノ官署ト云々包含シアリテ本條ニ依リ問罪スヘキ儀ニ可有之哉

內訓第一條第二條共見解ノ通

○新潟縣十五年五月六日伺。同年同月廿日付

刑法第二百三十一條官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齡職業ヲ詐稱シタルモノ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スト有之此ニ警部巡查出張先ニテ訊問ヲ要スルコアリ是等ノ場合ニ於テ屬籍身分氏名年齡職業ヲ詐稱シタル如キモ亦官署ニ對シ詐稱シタル者ト同樣ナルヤ

指令伺ノ通

○神戶輕罪廳判事補（十五年七月十一日請訓 同年八月一日內訓）

犯罪人審問ノ際問族籍氏名ヲ詐稱スル者アリ撿察官裁判官ニ於テ其言ヲ信シ刑ノ宣告ニ及ヘリ然而撿察官之ヲ本籍ニ傳達スルニ至リ始メテ詐稱ナルヲ知レリ或ハ數年ヲ經テ發覺スル者アリ抑該件ノ如キハ繼續犯ト看做スヘキカ果シテ繼續犯トスル時ハ二罪俱發ノ律ヲ用ヒス更ニ刑法二百三十一條ニ照シ罰セサルヲ得ス況ンヤ期滿免除ニ於テモ所關大ナルヲヤ今其情ヲ原ヌルニ如斯ハ單ニ贓名ノ本籍ニ播布センコヲ恐レ之ヲ犯スニ至ル者少トセス而シテ其罪ハ直ニ詐稱ノ時ニ於テ行ヒ終リシ者ナリ然レハ則チ即時犯ト云フモ繼續犯ト云ハサル穩當ナルニ似タリ右疑議ヲ生シ候間請內訓候也

內訓請訓ノ趣族籍氏名詐稱ノ罪ハ即時犯ニシテ繼續犯ニアラサル儀ト心得ヘシ

○高松始審廳判事（十五年八月廿五日問合 同年九月八日回答）

刑法第二百三十一條官署ヘ對シ身分ヲ詐稱シタル者トハ平民カ士族ト詐稱スルカ如キヲ云フ勿論ニシテ其他子弟カ戶主ト云ヒ二男カ長男庶子カ嫡子ト詐ル等總テ戶籍上ノ身分ヲ詐稱スル者皆此律ニ觸ルヽ事ト存居候然ルニ上文ノ外尙ホ或ハ他人ヲ詐テ伯父トカ從弟トカ稱スルカ如キモ普ク血脈ノ親ニアラサル者ヲ指シテ其親族ナリト詐稱スルニ付本條身分ヲ詐稱スル內ニ包含スルト云フノ論者アリ聊カ疑義有之

回答御問合ノ趣他人ヲ稱シテ叔姪ト云フカ如キハ身分ヲ詐稱スルモノニアラスト考量ス

○名古屋始審廳判事（十五年十月　日質疑 仝年十一月二日回答）

明治十五年一月一日以後各地方ノ便宜ニ依リ定メタル違警罪罰則ハ新ニ施行セシ者ニシテ舊刑法即新律綱領改定律例ニ代テ之レカ相續ヲナシタル法律ニアラス果シテ然ラハ茲ニ十四年十二月三十一日以前郷貫氏名ヲ詐稱シテ客店ニ宿泊シタル者アリ舊法ニ於テハ改定律例第二百五十九條ニ該ルモ新法即刑法ニ其正條ナク特リ愛知縣違警罪則中之ヲ處スルノ明文アルモ新法ニ正條ナキヲ以テ之ヲ問ハサル乎

回答地方官ニテ設定シタル違警罪條目ト雖モ舊法改正ト同時ニ設定シタルモノハ新舊比照法ニヨル

○前橋始審廳撿事（十五年十一月廿九日質議 仝年十二月五日回答）

刑法第二百三十一條ニ屬籍トアルハ本籍ノ地即國郡町村ノ謂ヒナルカ果シテ然ラハ寄留地ヲ詐稱セルモノモ又含蓄シ居ルヘキヤ

仝條ニ身分トアルハ華士族平民ノ區別ヲ云フ者カ

回答屬籍トハ寄留籍ヲモ含蓄スルモノナルヘク身分トハ華士族平民其他親屬ニ係ル身分等ヲ含蓄スル儀ト思考ス

第二百三十二條　官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ內外國ノ勳章ヲ僭用シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○長野縣　十五年八月十七日伺。同年九月八日付

刑法第二編第四章第九節ニ揭クル所ノ公撰ノ投票トハ法律規則ヲ以テ定メラレタル即府縣會議員撰擧法ノ如キ場合ヲ限ルカ將タ府縣又ハ郡區或ハ町村限リ適宜設ケタル公撰ノ場合モ含有スル儀ニ候哉果シテ第二段ノ如クナレハ十一年內務省乙第五十四號達ニヨリ府縣廳ニ於テ適宜設定シタル戶長撰擧法ノ如キ其採捨縣令ノ權內ニアルモノ及區町村限リ適宜規則ヲ設ケ縣令ノ裁可ヲ得テ執行スルモノ「區町村會議員學區會議員ノ類」等ノ投票亦右ニ適用可然哉此段相伺候也

指令后段見解之通

○鹿島縣警部　十五年九月廿一日請訓。同月三十日內訓

第二百三十三條若シ投票ヲ變更（假令ハ甲ノ姓名ヲ改竄シテ乙ノ姓名トナシタルノ類）シタル者明文ナシ右ハ增減ノ術ト解シ可然哉

內訓見解ノ通

第九節　公選ノ投票ヲ僞造スル罪

第二百三十三條　公選ノ投票ヲ僞造シ又ハ其數ヲ增減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十五條　投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ僞造シ又ハ增減シタル時ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十六條　調書ヲ作リ投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ增減シ其他詐僞ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○弘前輕罪廳撿事（十五年九月十三日請訓同年十月十一日內訓）

刑法第二百三十七條以下阿片烟ニ關スル罪ノ如キ外國ニ於テハ之ヲ罰スル法條ヲ揭ケサル國土多キ由兼テ承知致居候處今ヤ外交日ニ月ニ緊密相成ヨリ日本人ニシテ阿片烟吸喰等ノ所爲ヲ罪トセサル國ニ在テ吸喰シタル事アルモ歸國ノ後一切法ニ觸ルヽノ所爲ヲ作サヽル者ハ日本ニ於テ其外國ニ在テノ所爲ニ遡リ糺治スルニ及ハサル義ト心得可然哉

內訓外國ニ於テ日本國ノ法律ヲ犯シ歸國シタル者ハ外國ニ於テ罰セサル所爲ナルモ必ス我カ法律ニ依リ處斷ス

第五章　健康ヲ害スル罪

第一節　阿片烟ニ關スル罪

第二百三十七條　阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第二百三十八條　阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第二百三十九條　税關官吏情ヲ知テ阿片烟及ヒ其器具ヲ輸入セシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百四十條　阿片烟ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ハ輕懲役ニ處ス
人ヲ引誘シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦同シ

第二百四十一條　阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二百四十二條　阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

第二百四十三條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルヿ能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 人ノ健康ヲ害スヘキ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十五條　前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三節　傳染病豫防規則ニ關スル罪

第二百四十六條　傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十七條
船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スコトヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百四十八條
傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

○滋賀縣警部（十四年十一月廿一日質問　同年十二月六日回答）

刑法第二百五十條ニ官許ヲ得スシテ危害ヲ生スヘキ物品ノ製造所ヲ設立シタル者及ヒ第二百五十一條ニ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則云々トアリ右等ノ規則現今公布ナキ事件ハ縣限リ適宜取締規則ヲ施行スト雖モ違フ者ハ右兩條ニ據テ罰スル限リニアラサル義カ

回答縣限リ施行スル規則ト雖モ違フ者ハ刑法第二百五十條第二百五十一條ニヨリテ處斷ス

（理由）此疑問ヲ解スニハ刑法第二百五十條第二百五十一條ノミニ限ラス凡ソ刑法中（官）トアルハ舊法ノ如ク太政官ノミニ限ラス一般ノ官衙ヲモ汎ク指示シタルモノニテ一般ノ官衙ヲ言ヒシモノナレハ危害ヲ生スヘキ物品ノ製造所ヲ設立スル規則及ヒ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニシテ縣限ノ取締ニ係ルモノト雖モ之ニ違フ者ハ仍ホ兩條ニ從テ處斷スト考量

○松江輕罪裁判所檢事（十四年十二月廿八日伺　十五年一月二十四日付）

刑法第二百五十條初項官許ヲ得スシテ危害ヲ生スヘキ物品云々

第四節　危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪

第二百五十條 官許ヲ得スシテ危害ヲ生ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害スヘキ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處

後項若シ健康ヲ害スヘキ物品云々危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ者ト認定シタル時ハ假令官許ヲ得サレハ製造所ヲ創設ス可カラサルノ成規ナク又及害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニ記載セサル物品ト雖モ直ニ本條ヲ適用スヘキヤ

指令刑法第二百五十條ハ前項後項共像シメ官許ヲ受クヘシトノ成規アル者ニ限ルヘシ

ス

第二百五十一條　官許ヲ得テ前條ニ記載シタル製造所ヲ創設スト雖危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニ違背シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第二百五十二條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪

第二百五十三條 人ノ健康ヲ害スヘキ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

○警視廳 十五年六月二日質問。同月九日回答

搗米渡世ノ者金剛砂早搗粉ヲ玄米ヘ混入搗精スルハ其精米健康ニ害アルヲ以テ明治十三年東京府甲第五十八号ノ禁令アリ之レヲ犯シ混入搗精スル者ハ刑法之レヲ罰スルノ正條ナシ然レモ該禁令中其飯米ハ自然健康ニ害アル云々ノ趣旨ニヨレハ有害品ヲ混和シタル他ニ販賣スルニ非スト雖モ刑法第二百五十三條ヲ以テ罰スヘキモノトセンカ少シク穩當ナラサルカ如シ然ラハ刑典之レヲ問ハストセンカ犯者ヲ懲スノ道ナキノミナラス該令ノ實力十分ナラサルカ如シ

回答警第四号ヲ以テ御質問ノ趣第二項ハ刑法第二百五十三條ニヨリ處斷スヘキ者トス右ハ當局ノ意見ニ有之候條此段及回答候也

第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六節　私ニ醫シヲ爲ス罪

第二百五十六條　官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條　前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六章　風俗ヲ害スル罪

第二百五十八條
公然猥褻ノ所行ヲ為シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十九條
風俗ヲ害スル冊子圖畫其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

○高崎治安廳判事補（十五年七月四日請訓　仝年仝月廿一日内訓）

今ヤ一ノ犯者アリ賭場ヲ開張シ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタルモノ如キハ刑法第二百六十條ニ依リ斷決ヲ經ルハ論ヲ俟タス然リ而シテ該條ニハ現ニ明文ナキヲ以テ觀之ハ既往ニ及フコトハ煥然タレトモ其犯罪ニシテ刑法頒布以前ニ在ル輩ハ刑法第三條ニ基キ新舊ノ法ヲ比照云々ニ因ラサルヲ得スト雖モ舊律ノ法意ハ賭博犯ハ既往ハ尤メサル法理ナレハ第二項ノ如キ産業ナクシテ常々脇刀ヲ挾帶シ云々モ律ニ現ニ明文不相見トモ既往ニ係ハル分ハ罪ヲ斷決セサルモノナラン歟

内訓　所犯新法實施已前ニ係ルモノニシテ、舊賭博律第二項ニ該ル者ハ現行非現行ニ拘ハラス罪ヲ問フモノニ付刑法第三條ニ依テ處斷スヘキモノトス

○浦和始審廳檢事　十五年十月廿五日照會。同月卅一日回答

甲乙ノ兩人賭博ヲ爲シ甲ハ乙ニ二十五圓ノ勝ヲ得タリ然レトモ乙ハ元來所持金ナキヲ以テ甲ノ請求ニ依リ之ヲ通常ノ借用證書ニ作リ仍ホ甲ノ望ニヨリ丙某ヲ証人トスルコトニ約シタレトモ乙ハ之ヲ忌避シ恣ニ丙ノ氏名ヲ記シ有合印ヲ押捺シテ其証書ヲ甲ニ與ヘ

第二百六十條　賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

タリ他日乙其辨償ノ義務ヲ盡ス能ハス法庭ニ訴出セラレ始メテ其證人ヲ僞リタルコト發覺セリ抑民事ニ於テ賭博ノ勝負ヨリ成立タル契約ハ不正トシ之ヲ受理セサル慣例ナリト聞ケリ果シテ然ラハ刑事ニ於テモ亦罪ト爲サヽルモノト見做シ棄却スルコトヲ得ヘキヤ

回答　賭博ノ勝負ヨリ成立ツ貸借証書ニ恣ニ證人ノ氏名ヲ記シ有合印ヲ押捺シ付與シタル件右ハ御見込ノ通ニテ可然存候

○水戸始審廳判事補　十五年七月七日質問。同月十九日回答

茲ニ甲某ナル者賭博ノ巨魁ナリシヨリ乙者其子分ト爲ランコトヲ約シ其儘ニシテ丙者ノ子分トナリタルヲ以テ甲憤怒シ丙乙親子ノ杯ヲ解カンコトヲ屢々談判ニ及ヒタレトモ丙親分ニ於テ甲ノ談判ヲ肯セサルヨリ互ニ之ヲ干戈ニ訴ヘ其談判ヲ遂ケント約シ或日某原ニ甲丙者共互ニ數十名ノ子分ヲ押出シ既ニ干戈ヲ交ヘントセシ際仲裁ノ者立入リ爲メニ爭鬪不致シテ和解セシ者アリ右ハ檢察官ニ於テ刑法第二百六十條ニ觸ルヽノ所爲トナシ公訴ニ及ヒタレトモ小生ノ推考スル處ニヨレハ一ノ鬪毆犯ニ過キスシテ尙其目的ハ意外ノ景況ニ依リ謀試ヲ仕損セシモノ故別ニ刑法上罰

スヘキ正條ナキヲ以テ免訴スル旨豫審終結ノ言渡及候見込ニ有之候ヘ共本件ノ如キ當縣下ハ比々有之警察官等ニハ本訴ノ處分ニ注目罷有候趣考ニ承知致居候

回答御質問ノ趣鬪毆中止ノ廉ニ付テハ御見込ノ通ナレ𪜈博徒ヲ招結シタルノ証憑アルヲ以テ起訴アリタルトキハ格別ナリト考量ス

○群馬縣　十四年十一月廿五日伺。仝月卅日付電信

財物ヲ賭ケ博戲ヲナシ及ヒ房屋ヲ貸シタル証憑後ニ發露シタル者ノ一項違警罪ニ加ヘ度差支ナキヤ

指令賭博罪ニ付キ伺ノ趣ハ違警罪ニ加フルヲ得サル儀ト心得ヘシ

（理由）刑法第二百六十一條賭博罪及其房屋給與ノ罪ハ現行犯ノ場合ニ限リ之ヲ罰スル者ト定ム其意蓋シ非現行犯ハ罰スルニ及ハス又罰スルヿヲ得スト爲スニ在リ然ルニ其制限アルヲ解キ其同一ノ所爲ニ對シ刑罰ヲ定ム是レ刑法ヲ侵シ其立法者ノ意ヲ害スルヿ甚タシキ者トス若シ之ヲ許サハ他罪ニ付テモ又同シク之ヲ許サヽル可カラス例ヘハ公然猥褻ノ所爲アル者刑法之ヲ輕罪トス然ルヲ其制限ヲ解キ公然之ヲ行フ處ニ非サル者仍ホ違警罪ヲ爲スヿヲ得ルニ至リ遂ニ底止スル所ナカルヘシ

○群馬縣　十五年一月十日伺。仝月十九日付

舊法ヲ以テ違式ニ問ヒ來リタル賭博ニ用ユル骰子骨牌等ヲ持シ又ハ賭博ヲ傍觀セルノ犯人取調中月迫ニ及檢事ニ送致スルノ餘

第二百六十一條　財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者亦同シ但飮食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラス

賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒收ス

暇ナク遂ニ本年ニ回リタルモノアリ如此犯者ハ新法律ニ處分ノ明文ナシト雖モ本縣下ノ如キ博徒ノ盛ナル實ニ他縣ニ比類ナク其甚シキニ至リテハ白晝兇器ヲ携帶四隣ニ橫行良民ノ子弟ヲ誘導屢々賭房ヲ開張巨多ノ利益ヲ収メ常ニ飽食暖衣耽酒荒淫以テ榮譽ト心得ル如キノ徒間々有之爲メニ風俗ヲ害スルノミナラス强窃盜及人命ノ犯罪モ往々此ノ賭博者ニ原由セルモノ平常實驗モ不少故ニ前書博具ヲ攜帶スル者幷傍觀スルモノト雖モ豫メ之レカ懲罰ノ法ヲ設ケサルヘカラスト思料則舊法違式ニ問ヒタル博具ヲ持スルモノ及傍觀者ノ如キハ本縣制定ノ違警罪目中ニ掲ケタリ（本年一月一日ヨリ實施スヘキ旨客年十二月五日縣下ニ布達セリ）即チ舊違式ノ相續法律ナリ然レハ新舊ヲ比照シ輕キニ從テ處斷スルハ勿論ノ儀ト心得可然哉

指令總テ伺之通

○松江輕罪廳撿事（十四年十二月廿八日伺 十五年一月廿四日付）

第二百六十一條財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ云々現ニ博奕ヲ爲シタル者トハ博奕ヲ爲シタルヿ顯著ナレハ現行非現行犯ニ拘ハラス本條ヲ適用スヘキヤ

指令現ニ博奕ヲ爲シタル者トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル者ヲ云フ

○茨城縣　十五年一月廿七日伺。仝年二月六日付

刑法第二百六十一條但書ニ飲食物ヲ賭スルモノハ此限ニ在ラスト有之ハ席上遊戲ニ等シキ菓子又ハ酒杯ヲ賭クル事ニシテ該場ニ於テ食尽スル物ヲ指名セシモノニ有之候哉果シテ然ラハ飲食物ト雖モ現ニ酒米等ヲ數石賭クルモノハ本條財物ヲ賭シテ博奕ヲ爲スモノト心得可然哉

指令總テ伺之通

（理由）飲食物トアル文字ニ拘泥シ飲食物ニ係ル者ハ多少ニ拘ハラス總テ該條ノ但書ニ入ルヘキ者ト定ムル時ハ其弊ヤ云フ可ラサルニ至ラン且法律ノ精神ニ背戻スルニ付伺ノ通

○滋賀縣　十五年一月十六日伺。仝年二月十日付

刑法第二百六十一條ニ依ルニ賭博罪ノ如キハ純然タル現行犯ニ非サレハ其罪ヲ問ハサルモノ、如シ果シテ然ルトキハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シ又ハ治罪法第百一條ニ云フ準現行犯ノ場合ニ係ルモ其罪ヲ問ハザルヤ如何

指令現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモノハ其罪ヲ問ヒ治罪法第百一條ノ場合ハ其罪ヲ問ハス

○盛岡始審廳撿事 十五年二月廿二日伺。仝年三月十日付

刑法第二百六十一條博奕ヲ爲スノ情ヲ知テ房屋ヲ給與スル者ハ非現行ニカヽルモ其罪ヲ論スヘキ乎果シテ然ラハ爰ニ財物ヲ賭シ博奕ヲ爲ス者及其情ヲ知テ房屋ヲ給與スル者共ニ非現行ニ發覺シタル場合ト雖モ房屋ヲ給與シタル者ハ仍ホ其罪ヲ問フ儀ト心得可然哉

指令博奕ヲ爲スノ情ヲ知テ房屋ヲ給與スル者非現行犯ニ係ル時ハ其罪ヲ問フノ限ニアラス

但常ニ房屋ヲ給與シ追テ謝金等ヲ受ケ其實賭場開張ニ異ラサル者非現行犯ニ係モ刑法第二百六十條ニ依テ處分スヘシ

⊙高田始審廳撿事 十五年二月廿五日伺。仝年三月十四日付

刑法第二百六十一條財物ヲ賭シ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ云々ト有之右ハ其賭博現場ニ於テ逮捕スルカ或ハ其場所ヨリ引續キ追跡シテ捕拿シタル場合ニ非サレハ之ヲ罰セサルノ精神ニ可有之儀ト考量致居候處或ハ其現場ニ於テ逮捕スルニ非サルモ警吏ニ

於テ其所爲ヲ見認メタル以上ハ假令數旬ヲ經ルモ捜査ノ上之ヲ逮捕シ現行犯ヲ以テ論スル法術モ有之哉ニ傳承候ニ付テハ萬一各々解釋ヲ異ニシ區々ノ處分ヨリ其權衡ヲ失スルノ弊有之候テハ不都合ノ儀ト被存候ニ付左ノ件々豫メ伺置キ度候

第一條若シ甲乙丙丁ノ四人現ニ博奕ヲ爲スコヲ探聞シ警吏其場ニ突入スルニ際シ甲乙ハ其場ニ於テ逮捕セラレ丙丁ハ遂ニ其場ヲ逃走セリ而シテ警吏ニ於テハ丙丁ノ名ハ知ラサルモ其容貌等ヲ確ト見認メ且甲乙ト共ニ現ニ博奕ヲ爲シタルコモ又之ヲ見認メタル場合ニ於テハ假令數旬ヲ經ルモ捕縛ノ上現行犯ヲ以テ處分シ刑ノ適用ヲ求メ可然哉又假令警吏其行爲ト容貌ヲ見認ムルモ既ニ其場ヲ逃レ犯場ト犯人ト全ク距絶セルニ於テ之ヲ非現行トシ其賭場ヲ開張シ博徒ヲ招結シタルモノ而已之ヲ處分シ單ニ博奕ヲ爲シタルモノハ起訴ノ手續ヲナス可ラサルモノト相心得可然哉

第二條前條ノ場合ニ於テ其逃走シタル丙丁數旬ノ後悔悟自首シタル場合ニ於テハ假令現場捕拿ニ非サルモ現行犯ヲ以テ論シ刑ノ適用ヲ求メ可然哉又ハ己ニ一度現場ヲ逃走シタルヲ以テ起訴

ノ手續ヲ爲スヘカラサルモノト相心得可然哉
指令第一條逃走シタル丙丁ハ甲乙ト共ニ起訴ヲ爲スヲ得第二條前條ノ指令ニヨリ會得スヘシ
（理由）第六十一條財物ヲ賭シ現ニ博奕ヲ爲シタル者云々現ニトハ現在博奕ヲ爲シ居ル者ノ儀ニシテ現ノ字ニ於テハ治罪法ニ云フ處ノ現行犯ト云フト異ナルコトナシト雖モ治罪法ニ現行非現行ヲ別チタルハ犯人ヲ逮捕スル手續ノ區別ヲ定メタルモノニシテ刑法ニ掲クル現ニ博奕ヲ爲シタル者ト謂フト其意義ヲ異ニセリ本案伺丙丁二名ノ如キハ現場ニ於テ賭博ヲ爲スヲ讞見セラレ且ツ共犯二名ハ捕縛セラレタルヲ以テ其賭博ヲ爲シタルヤ明瞭ナリ譬ヘハ幾旬ヲ經捕ニ就クモ其罪ヲ治ムルヲ得ルハ當然ノコトス
〇小倉治安廳　十五年二月廿五日請訓。仝年三月十四日內訓
茲ニ博徒數名圍坐金錢ヲ賭シ博奕ヲ爲スモノアルニ內二名ハ失敗ノタメ中止傍觀シ居タル際巡査立込ミ內一名捕拿餘ハ辛フシテ逃走セリ其被捕者ノ供述ニ巡査立込ノ時甲乙二名ハ中止シ居タリト日ナラスシテ右二名ノ內甲某捕ニ就キ之カ供述ニ於テモ

前ノ被捕者ノ申供ト毫モ異ナルコトナシ此甲者ノ犯狀タル刑法第三百六十一條ニ照シ處斷スヘキ者ノ如シト雖モ該條ハ現ニ賭博ヲ爲ス者ノミニ適用スヘキ法條ナリ斯ノ如ク中止セル者ニ適施スル爲妥當ナラサルヤ假タリ將タ治罪法第百條ヲ參照スルニ現行トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際發覺シタル罪ヲ云フトアリ此二法ニ於テ相悖然スルコナキ者ト看ル時ハ刑法第二百六十一條ニ照シ處斷シ然ル可シト雖モ其賭博犯ニ付刑法ノ精神ト現行犯ニ付治罪法ノ律文ト合一ナラサルヲ覺ユ因テ疑義相生シ候
內訓刑法第三百六十一條ニ現ニトアルハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル者ヲ指スニ付其坐ニ於テ賭博ヲ爲シタル者ハ一時中止傍觀スルモ其罪ヲ問フ義ト心得ヘシ
〇松本輕罪廳伺事（十五年三月廿三日照會　仝月廿五日付電報）
非現行ノ賭博犯罪ハ本人罪ヲ悔ヒ自首スルモ其罪ヲ問ハサルヤ
同答本月廿三日電報御照會非現行犯賭博ノ自首ハ御意見ノ通
〇秋田縣輕罪廳伺事（十五年三月二日請訓　四月廿九日內訓）
爰ニ數名會合シ骨牌ヲ弄シテ遊戲スル者認知シ現場踏入リタル所骨牌ハ現場ニ散亂シ賭博ヲ爲サシトセシモ金圓持合ハサルヨ

リ財物ヲ賭セサル旨申供シ他ニ證據ナキカ故ニ刑法第二百六十一條ノ罪アルモノト斷定シ難シ又單ニ骨子骨牌ノミヲ所持スルヲ以テ風俗ヲ壞亂スヘキ物件ト見做シ難キニ依テ沒收セサル法意ナリト思考スル云前述ノ如ク遊戲ニ係ルトキハ刑法第四十三條ニ依リ裁判官宣告ノ上沒收シテ可然ヤニ相考候得共明文ナキニ付如何處分可然ヤ

内訓戲戲ニ係ル者ハ沒收スヘカラス但金圓ヲ所持セサルモ其勝敗ニ因リ後日金圓ノ取引ヲ約スル者ノ如キハ刑法第二百六十一條ニ依ルヘキモノトス

○富山始審廳檢事十五年三月七日伺。仝年四月七日付

刑法第二百六十一條財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハトアリテ現ニトアルハ現行犯ノ場合ヲ指シ又其情ヲ知テ房屋ヲ給與スル者亦同シトアリテ現ニト云フ意味ハ含蓄シアルモノト解釋ヲ爲シ穩當ヲ得ルヤ同第二百六十條ハ現ニト云フ文字ナキヲ以テ現行非現行ニ係ラスト云フ旨義ナルヤ

果シテ右ノ如ク解釋ヲ下スニ於テハ旅店等ニ於テ賃科ヲ得場所ヲ給與スルモノアリテ賭博ヲナシ賭博者未發ニ自首スレハ自首

者ハ起訴ノ手續ヲ爲スヲ得スシテ旅店者ニ對シ搜査及ヒ起訴ノ手續ヲ爲サヽルヲ得ス如斯場合ニ於テハ實際不權衡ナルモノト存候得共犯罪ノ種類ヲ異ニスレハ法文上不得止モノト相心得可然哉

指令伺之通

(理由)刑法第二百六十一條ニ現ニ博奕ヲ爲シタルモノトアル(現)ニトハ則現行犯ノ義ニシテ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際官ニ發覺シタルヲ云フ故ニ(其情ヲ)知テ房屋ヲ給與シタルモノモ亦右現ニトアル義ヲ有スル者トス

又刑法第二百六十條ハ現ニノ文字ナキヲ以テ非現行ト雖𪜈之ヲ罰スヘキナリ故ニ賭博者未發ニ自首シ其罪ヲ問ハサル時ト雖𪜈賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リタル旅店主ノ爲メニハ搜査及ヒ起訴ノ手續ヲ爲サヽル可カラサルナリ

○宇和島輕罪廳檢事十五年三月十三日伺。仝年四月十日付

現ニ賭博ヲ爲シタリトシテ逮捕シ檢事々件ト共ニ被告人ヲ受取リ訊問シタル後起訴ヲ爲ス可カラサル者ト認メ直チニ放免ノ處分ヲ爲スニ骨牌等ハ裁判所ヲ經スシテ沒收ノ處分ヲ行ヒ難ク依

テ不得止留置候得共處分方差支候ニ付至急御指令ヲ仰キ候也

指令其骨牌ハ所有人ニ還付スヘシ

○愛媛縣伺 十五年三月廿八日伺。仝年四月十三日付

茲ニ一家男女聚テ金錢ヲ賭シ現ニ博奕ヲ為ス者アリ其賭塲警邏ノ巡査目撃スルヲ以テ治罪法第百二條ニヨリ直チニ之ヲ逮捕シテ司法警察官ニ引致セリ依テ同官ハ假リニ訊問ヲ遂クルニ果シテ一家同爨ノ父子夫婦兄弟姉妹等ニテ現ニ博戯ヲ為シタルニ相違ナキ旨ヲ陳述セリ是レ則チ刑法第二百六十條及第二百六十一條ノ賭博現行犯者ナリト見込速ニ之ヲ宇和島輕罪裁判所檢事ニ送致セシニ同官ニ於テハ一家族ノ賭博ハ損益ノ他ニ及ハサルヲ以テ起訴ノ手續ヲ為サスシテ解放セリ抑モ賭博犯ヲ罰スルヤ風俗ヲ紊亂スルノ一点ニ外ナラサルヘシ果シテ然ラハ一家族ト雖モ風俗ヲ紊亂スルニ於テハ同一ナリ左スレハ之ヲ各自ニ科セサルヲ得ス若シ之ヲ科セサルトセハ其弊害タルヤ延テ隣家及一村郡ニ波及シテ各其家産ヲ破リ兄弟妻子離散スルニ至ルノミナラス遂ニ金錢上ノ取引ヨリ互ニ私怨ヲ挾ミ父子兄弟骨肉相鬪フニ至ラシムルモ難計甚行政上取締難相立依テ一家族ノ賭博モ各自

同罪候樣致度候得共法律ノ主意ハ之ヲ不問ニ置クモノカ將タ問罪スヘキモノナラハ其旨檢事ヘ御内訓相成度目下差懸リタル事件有之相伺候也

指令伺ノ趣其罪ヲ問フヘキモノニ付其旨檢事ニ相達置候條更ニ該事件ヲ送致スヘシ

○宇和島始審廳檢事ヘ達 十五年四月十三日

愛媛縣令關新平ヨリ別紙ノ通伺出候處賭博罪ニ限リ一家族ノ犯罪ヲ罰セサル理由無之ヲ以テ其罪ヲ問フヘキ旨同縣令ヘ指令ニ及ヒ猶該事件ヲ送致候得ハ通常ノ規則ニ從ヒ起訴ノ手續ヲナスヘシ此旨相達候事

○宇和島輕罪廳檢事 （十五年五月三日伺 仝年仝月廿三日付）

本年四月十三日付ヲ以テ一家族ノ者賭博犯罪ニ付起訴スヘキ旨御達ノ趣キ敬承仕候倩ラ愛媛縣令關新平カ上申書ヲ考フルニ果シテ一家同炊ノ父子夫婦兄弟姉妹博奕ヲナシ警邏ノ巡査目撃スルヲ以テ治罪法第百三條ニ依リ直ニ之ヲ逮捕シ司法警察官一應訊問ヲ遂クルニ現ニ博奕ヲ犯シタリト陳述スルヲ檢事ニ於テ解放セシ云々等ノ事件ハ本官赴任以來送致ヲ受ケ解放ノ處分ヲ為

シタルコ無之ト思考候右ハ全ク同縣令ノ誤申若クハ裁判所違ナラン歟尤モ少シク似寄ノ事件有之ニ付為御參考被告事件書類相添ヘ左ニ其事件ノ概略ヲ記シ意見ヲ付シ相伺候

抑愛媛縣下東南北宇和郡ニ於テハ未タ大陰暦ヲ推用スルモノ尠カラス本年二月十九日ハ即舊正月ニ當ルヲ以テ農商業ヲ放テ遊戲ス爰ニ北宇和郡岩淵村平民西村重太郎ノ近隣ニ於テ「ホーピキ」ト唱フル博奕ヲ為セリ重太郎妻ソノモ同家ヘ至リ遊戲ニ加ハランコトヲ望ムノ色アルヲ觀テ重太郎ハ衆中ヘ遣スコヲ欲セス是ヲ言ハスシテ引留メンコトヲ工夫シ錢十錢餘ヲ出シ滑子ヲ以テ妻ト輸贏ノ狀ヲナシタリ其際森祐作三瀨景明内山祐七ナル者門前ヲ通行シ錢聲ヲ聽テ直ニ侵入シ滑子及ヒ現錢ヲ差押ヘ夫婦ヲ逮捕シ官署ヘ同道セリ漸次檢事ニ送致セルニ付訊問スルニ前陳ノ通ナリ仍テ左ノ意見ナルニ付直ニ解放セリ

意見書

一被告夫婦カ十錢餘ハ兩人互ニ出シ合ヒ賭ケタル錢ニ無之一家共有ノ錢ヲ夫カ出シタルモノニシテ輸贏ニヨッテ損益ヲ相分ツモノニ非ス勝負ニ拘ハラス共ニ夫カ有ニ歸スル者ナリ夫レ博奕罪ヲ罰スルハ其勝者ハ人ノ財産ニ據テ富ヲナシ負クル者ハ之ニ依テ破産ス共ニ其理ナク道ニ非ラスシテ取與シ興廢ヲ成ス人々看テ之ニ倣ヒ竟ニ風俗ヲ敗壞スルニ至ル敗壞セラル、社會則チ被害者ナリ仍テ賭博罪ニ限リ現場ニ被害者ナシト雖モ之ヲ罰スル所以ナリ而シテ本案ヲ詳ニスルニ其狀ヲ論スレハ博奕ナリ其實ヲ問ヘハ戲ナリ父ト子ト相約シ父ハ被害者ニ模シ子ハ兇器ヲ持スル強盜ニ扮スルモノアリ其狀ヲ執テ論スレハ強盜ナリ其實ヲ問ハ戲ナリ焉ソ之等ヲ強盜罪ヲ以テ處スルモノアランヤ被告カ事件ノ如キモ錢ハ夫ノ手ヨリ出テ其儘ニ夫ニ歸ス博奕ト名クヘキモノニアラス仍テ解放セリ

以上西村重太郎ト妻ソノ解放事件ナリ若シ夫レ愛媛縣令上申ノ如ク同炊ノ父子夫婦兄弟姉妹タリト雖モ互ニ錢ヲ出シ勝敗ヲ決セハ是レ賭博ナリ譬ヘハ兄弟同炊ス兄ニ妻子アリ弟モ亦妻子アリ互ニ生計ヲ異ニス兄ノ輸クル所弟ノ贏ツ所ナリ損益ヲ決セハ何ソ啻行政上ノ取締ノミナランヤ社會皆被害者ナリ勿論問罪スヘシ父子姉妹皆然リト存候

將來重太郎ノ如キ戲ニ屬スルモノト雖モ尚ホ起訴スヘキモノニ

候哉且又家長則チ一家ノ生計ヲ取賄フモノ其錢ヲ賭ケ勝取ヲ決シ勝チタル時ハ其生養ヲ受クル者ニ與フカ如キハ互ニ錢ヲ出シ損益ヲ決シタルニ非スト雖モ目シテ賭博ヲナシ起訴スヘキ者ニ候哉但是等ハ實ニ窃盗ノ所爲アルモ刑法第三百七十七條ノ如キニ係ル時ハ竊盗ヲ以テ論セサル例ニ傚ヒ獨リ賭博ニ限ルニ非スト雖モ起訴セサル義ニ候哉

指令伺ノ趣賭博ノ事實有之者ナルヲ以テ起訴ノ手續ヲ爲スニ及ハス

但愛媛縣ハ別紙ノ通更ニ相達置候條此旨相心得ヘシ

別紙同縣ヘ達

宇和嶋始審裁判所檢事田中來三郎ヨリ別紙ノ通伺出候ニ付右ノ通指令ニ及置候條客月十三日付ヲ以テ其縣ヘ指令ニ及ヒ候件ハ該件ト同一件ニ候得ハ右檢事ヘ指令ノ通心得ヘシ

○前橋輕罪廳檢事十五年十月十八日伺。仝年十月廿七日付

今茲ニ財物ヲ賭シ現ニ博戲ヲ爲ス者アリ人民之ヲ擅見シテ直ニ捕縛シ或ハ捕得セサルモ（誰某タルヲ認知シ）官署ニ告發スル者有右等ノ如キハ刑法第二百六十一條ヲ運用スルハ勿論ノ儀ト心

得候得共聊カ疑義ヲ生シ

指令伺ノ通刑法第二百六十一條ヲ適用スヘシ

○高崎治安廳判事補　十五年十月三日伺。仝月三十日付

刑法第三百六十條賭場ヲ開帳シ利ヲ圖ル者トハ（一家他家）ノ別ナク人ヲ寄集シ賭場ヲ開張シ母錢ヲ貸シ息ヲ收メ又ハ坐料等ヲ貪リ已レ賭場ヲ開張シ己レニ利ヲ得ル者等ヲ指示スル律意ト被考候得共茲ニ一家アリ偶々他人ノ博具（即チ駒札ト唱ヘ賭錢ニ換ルノ具）ヲ齎ラシ來リ博奕ヲ爲ント發意スルニ家主（男夫）其他居合スル數人皆之ニ同シ賭場ヲ開張ナス其際シ其家婦右ノ駒札ヲ以テ單ニ母錢ノ貸元トナリ他人又ハ夫ヨリモ息ヲ收ム該婦ノ所爲タル其賭場ヲ開張スルハ夫ニシテ曾テ利ヲ圖ル者ナレハ純粹ノ賭場ヲ開張シ利ヲ圖ル者ト所犯較々遲延アリ之ヲ刑法第二百六十條ニ照スニ翻テ賭場ヲ開帳シ現ニ博奕ヲナシタル家主（男夫）ハ第三百六十一條ヲ以テ論シ其罪輕ク少ク妥當ナラサルヲ覺ユ去迚單ニ利ヲ圖ル者ノミヲ罰スルモ他ニ正條ナケレハ之ヲ無罪視スルノ理ニ決シテアル可カラサル者ニ付右等犯者ハ概シテ賭場ヲ開張シ利ヲ圖ル者トナシ第二百六十條ニ擬シ處決スヘキ者ニ可有之哉

内訓伺ノ趣家主及婦ハ賭博ノ正犯ナルヲ以テ刑法第二百六十一條ニ依リ處分ス

○高崎治安廳判事補　十五年十月十三日伺。仝十一月一日付

茲ニ婦アリ一時他日歸家スルニ夫始メ他數人自宅ニ達至シ現ニ博奕ヲナスヲ見一旦制止スルモ止マラス故ニ敢テ之ヲ制セス其傍ニ坐視セシニ賭博務意者（博具ヲ携來リ利ヲ圖ル者）ハ博具（駒札）散亂セサル樣看守致シ呉レ可クトノ依賴アルヨリ終ニ其依賴ニ應シ單ニ駒札ノ看守ヲナス之レカ罪ヲ斷スル刑法中別ニ適條ナケレハ無罪視スル者トハ被考候得共或ハ之ヲ刑法第百九條正犯ヲ幇助犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯トナストアルニ依リ同第二百六十條賭場ヲ開張シ利ヲ圖ル者ノ從犯ト爲シ論決ス可キ者ナルヤ

指令伺ノ趣正犯ヲ幇助シタル程ノ情狀アルニ非サレハ不問ニ置ク可シ若シ現場ニ於テ正犯ヲ幇助シタル者ナルトキハ第二百六十一條ノ正犯ヲ以テ論ス

○茨城縣 十五年二月廿五日伺。仝年四月十八日付

刑法第二百六十二條ニ財物ヲ醵集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者ハ云々ト有候處譬ハ爰ニ發起人アリ其講ノ名義ヲ付シ講會ヲ設ケ十ケ年滿會ニテ株數五千株トナシ一株ニ付毎月五拾錢ヲ醵集シヲ集會ヲ為シ此累積金二千五百圓（一ケ月ノ醵金）ノ内八百圓ヲ大用立金ト唱ヘ株主五千人ヲシテ籤ヲ引カシメ二名ヲ當リ籤ト定メ四百圓宛ヲ付與シ千二百三十圓ヲ小用立金ト唱ヒ四千九百九十八名（即チ當リ籤ノ者ヲ除ク）ニ競籤ノ投票ヲナサシメ三十圓ニ競下ケ（二十八圓ニ競下ケタルヲ以テ留メ票トスルモ三十圓ト云フハ平均ヲ云フ）タル者ニハ之ヲ付與ス（即四十一名ノ競籤高千二百三十圓）又二百五十圓ヲ周旋人ノ手數料トシテ引去リ二百二十圓ヲ會場諸費ニ消費シ滿會迄籤ニ當ラス競籤ヲ為サヽル者ハ出金ノ額ニ幾分ノ利子ヲ添ヘ返戻ヲ受クルヲ法トスルナリ其名ハ大用立小用立トナシ尋常貸借ノ如シト雖モ其實否ラス初會（即チ第一ケ月）ニハ五千人ノ内二名ハ五十錢ヲ出シテ四百圓ノ金ヲ得四十一人ハ五十錢ノ金ヲ出シテ三十圓宛ノ金ヲ得二會ニハ前會ニ當リ籤ノ者ト競籤ヲナシタル者ヲ除キ

第二百六十二條 財物ヲ醵集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

四千九百五十七人ノ内二名ハ一圓（即チ當會ニ出シタル金五十錢ト合セテ一圓）ヲ出シテ四百圓ノ金ヲ得四十一人ハ一圓（仝上）ノ金ヲ出シテ三十圓宛ノ金ヲ得（漸次此方法ニ異ナラス）ルモノニシテ四百圓ノ金ヲ得タルモノモ三十圓ノ金ヲ得タルモノモ十年間ハ毎月等シク五十錢宛ノ金ヲ醵集セラレ其合金（即チ十ケ年ノ醵集金）六十圓ナルニ一ハ三百四十圓ノ利益ヲ得一ハ三十圓ノ損失（四百圓ヲ得ルモノハ三百四十圓ノ利益三十圓ヲ得ルモノハ三十圓ノ損失）ヲ生スルノミナラス毎月醵集ノ金ハ悉ク費用スルニヨリ滿會ニ至ルモ十年間籤ニ當ラス競籤ヲナサヽル者ノ受クヘキ利子ノ金アラサルモノニシテ其幸不幸モ亦甚シク是レ則籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルモノナリ富籤ノ制タル素ヨリ定リタルモノニ之ナク候間前書ノ如キ方法ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル發起人ハ即チ刑法第二百六十二條ニ依リ處分シ可然存候ヘ共相伺候條至急御指揮有之度候也

指令伺之趣ハ富類似ノ所為ニ付實際上弊害アリト思料スル時ハ行政上ノ處分ヲ以テ之ヲ禁スル儀ハ格別ナリト雖モ刑法第二百六十二條ニヨリ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業トナシ罰スヘキモノニアラス[illegible]

（理由）右ハ實際行政上ノ取扱方ニ付先ニ内務省ニ問合セ候處仝省ノ慣例ニ依レハ本案ノ如キハ眞ノ富籤トハ爲サス富類似ノモノトシテ禁シ來リシ回答有之因テ熟考スルニ斯ノ如キ所爲ハ實際ニ於テ稍弊害ナキニ非サルヘキニ因リ行政上ノ處分ヲ以テ之ヲ禁スルハ格別ナリト雖モ刑法第二百六十二條ニ依リ罰スヘキモノニ非スト考量ス

○東京大學校（十五年十月　日質問　同年十一月廿四日回答）

刑法第四百二十六條第十一項神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者トアリテ之ヲ違警罪トス而シテ若シ神社佛堂ニ不敬ヲナシタルモノアル時ハ第二百六十三條ヲ以テ論セリ然ルニ汚損ト不敬トノ間ニ區別甚タ判然シ難クシテ却テ罪ニ此輕重アルハ何等ノ理由ニ候哉

回答刑法第二百六十三條ノ罪ハ宗教ニ對シ不敬凌辱ノ所行ヲ爲シタル者ヲ罰スル條ニシテ同第四百二十六條第十一項ノ罪ハ不敬凌辱ノ意ナク單ニ汚損シタル所爲ヲ罰スル條ナリトス

第二百六十三條　神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ所爲アル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
若シ説教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七章　死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

第二百六十四條　埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十五條　墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十六條
此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第八章　商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

第二百六十七條
僞計又ハ威力ヲ以テ穀類其他衆人ノ需用ニ缺ク可カラサル食用物ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨

害シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百六十八條　僞計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十九條 偽計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業ヲ妨害シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十條 農工ノ雇人其雇賃ヲ增サシメ又ハ農工業ノ景況ヲ變セシムル爲メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十一條

雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變スル爲メ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對シ僞計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十二條

虛僞ノ風說ヲ流布シテ穀類其他衆人需用ノ物品ノ價直ヲ昂低セシメタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章　官吏瀆職ノ罪

第一節　官吏公益ヲ害スル罪

第二百七十三條　官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セス又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

[illegible]

第二百七十四條　兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スル權アル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎭撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サヽル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

[illegible]

第二百七十五條
官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二節 官吏人民ニ對スル罪

第二百七十六條
官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利ヲ妨害シタル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十七條 人ノ身體財産ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事檢事警察官吏其報告ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲サヽル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○福島裁判所檢事（十四年十一月廿五日請訓 同十二月十三日內訓）

第二百七十七條本條ニ記載スル官吏私用ニテ途中往來或ハ夜中私宅ニ寢臥ノ時刻等職務ヲ行ハサル節報告ヲ受ケ保護ノ處分ヲ行ハサル者ハ此條問フ處ニアラスト心得可然哉

但司法警察官ノ如キ別ニ規則ヲ設ケ休暇私宅ニアル節モ報告ヲ承ケタル片ハ保護ノ處分ヲ行フヘキ規則ヲ設ケタルハ此限ニアラサルヘキカ

內訓但書共見解ノ通

○神奈川縣 十四年十二月廿七日伺。十五年一月十日付

刑法第二百七十七條ニ人ノ身体財産ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事檢事警察官吏其報告ヲ受ケ速ニ保護ノ處分ヲ爲サヽル者ハ云々ト有之右警察官吏トハ司法警察官及巡査ヲモ包含スル儀ト心得可然哉

指令伺之趣巡査ハ刑法第二百七十七條ニ含蓄セス

（理由）刑法第二百七十七條ニ記載シタル警察官吏トハ司法警察官ナルコハ勿論ナレヒ巡査ハ該條ニ含蓄セス